



地域活動ヒント集

「元気ムラ」を参考事例に
今日からはじめる地域づくり

地域
コミュニティの力
発揮
マニュアル

秋田県内の
元気な活動
事例を紹介!



地域活動で
悩んでいる
みなさんの
強い味方!



秋田県地域コミュニティ政策推進協議会

【第二版】平成27年3月発行

日頃から、集落会、町内会、常会などの自治会やコミュニティで活動されているみなさんへ

この度は、本書を手にしていただき、大変ありがとうございます。

みなさんの中には、普段の自治会活動で例えば「声かけても、集まりに参加してくれないんだよな～」とか「若い人が参加しなくてねえ～」とか、いろいろお困りごとがお有りの方もおられると思います。

本書は、そのような方が、ちょっと手にして、のぞき込み、何かしらのヒントになればと考え、市町村と県の職員が手分けし作成したものです。

内容は、県内各地で、みなさんと同じような問題をかかえている自治会の仲間が、なんとか苦労しながらも、工夫して取り組んでいるたくさんの事例を、質問と回答形式にまとめたものです。

もっと、詳しく内容を知りたい方や、掲載されている自治会と交流したい方は、巻末のサポート窓口の職員へお気軽にお申し出ください。

少しでも多くの方に本書を手にしていただき、本書がみなさんのこれから自治会活動の一助になることを願っております。

編集スタッフ一同



目次

本編及び別冊(解説・資料編)

■ 本編

ページ

1 ページ 第一章 Q & A編

29 ページ 第二章 活動地域及び事例編

107 ページ その他 ・用語解説

・地域コミュニティサポート窓口の案内

■ 別冊

ページ

1 ページ 第一章 地域コミュニティ解説編

7 ページ 第二章 地域コミュニティ自立プログラム編

17 ページ 第三章 自治会・町内会等住民自治組織に関するアンケート解説編

Q&A一覧

みんな集まれ！地域の組織づくり

- 質問その1** 集落会・町内会などの自治会が活動することで、何が期待できますか？ 3 ページ
- 質問その2** 地域づくり活動に取り組みたいと思うが、何から始めたらいいでしょうか？ 4 ページ
- 質問その3** 自治会活動に人が集まらない……活動の参加者がいつも同じ……興味をもってもらうにはどうしたらいいですか？ 5 ページ
- 質問その4** 若い世代の参加が少ない……
若い世代の参加を増やしたい……
活動に若い世代を参加させるにはどうしたらいいですか？ 6 ページ
- 質問その5** 地域のつながりが薄くなってきてているように感じる。
つながりづくりにはどのようなことが有効ですか？ 7 ページ
- 質問その6** 地域の人数が少ないため活動が難しい場合、どのような活動が考えられますか？ 8 ページ
- 質問その7** 組織が大きくてまとまりづらい…
どこから、何から始めたらいいでしょうか？ 9 ページ

できることから工夫して！実践活動

- 質問その8** 地域で防災・減災に努めたい。災害が起きたときのため、日頃からどんな準備をしたらいいでしょうか？ 10 ページ
- 質問その9** 地域の高齢世帯が除雪や買い物に不便しています。
地域で対応するにはどのようなことが考えられますか？ 11 ページ
- 質問その10** 高齢者二人だけの世帯、単身高齢者世帯が増えています。どうやって地域で支えていけばいいでしょうか？ 12 ページ
- 質問その11** 地域の高齢者の閉じこもりを防止するにはどうすればよいでしょうか？地域内で顔を合わせる機会が少なくなったと感じます… 13 ページ
- 質問その12** 子供が減り、行事ができず、地域に元気がなくなってきたいます。どんな工夫をしている地域がありますか？ 14 ページ

- 質問その**13** 自治会にお金がありません。自治会収入を安定的に確保するには、どのような方法がありますか？ 15 ページ
- 質問その**14** 「地域に眠っている資源（お宝）」と言いますが、何を、どのように活用しているのでしょうか？ 16 ページ
- 質問その**15** 地域で「直売所を始めたい」「地場産食材を使ったお菓子を売りたい」などの声があります。何から始めたらよいですか？ 17 ページ
- 質問その**16** 他地域から人を呼び込むイベントを、継続的に行うには、どうしたらいいでしょうか？ 18 ページ
- 質問その**17** 地域で管理している山を活用して、収入につながるような取組をしている地域はありますか？ 19 ページ
- 質問その**18** 地域の山にある山菜等が見知らぬ人に採取されているようです。何か良い防止策はありますか？ 20 ページ
- 質問その**19** 豊富にある山菜等を出荷してみたいのですが、どのような方法がありますか？ 21 ページ
- 質問その**20** 街なかに住んでいます。街なかの自治会で収入や活性化につながる取組にはどのようなものがありますか？ 22 ページ
- 質問その**21** 町内会活動で収益が生じました。申告や納税はどうしたらいいでしょうか？ 23 ページ

ふるさとを守る、伝える！文化の継承

- 質問その**22** 番楽などの伝統芸能の後継者が減少してきています。他の地域ではどのような形で対応しているのでしょうか？ 24 ページ
- 質問その**23** 伝統行事を復活させたいが、実施してもみんなが参加してくれるかどうか不安です。地域に若い人も少ないし……どうしたらいいでしょうか？ 25 ページ
- 質問その**24** 高齢者が持つわら細工づくり等の技を、若い人に継承する方法はありませんか？ 26 ページ
- 質問その**25** 昔、どの家でも食べていた手作りお菓子を、地域の味として伝えるための方法はないでしょうか？ 27 ページ
- 質問その**26** 地域で昔から作ってきた伝統野菜、多くの人にその良さを知ってもらいたいのですが…… 28 ページ

Q 質問 その1

集落会・町内会などの自治会が活動することで、何が期待できますか？

A 答え

みなさんが住んでいる地域で困っていることはありませんか？一人や近所だけで解決が難しいと思われる課題も、みんなの知恵と力を合わせると、解決の糸口が見えてきます。地域のみなさんが一緒に活動することで、つながりが生まれ、地域が明るくなることが期待できます。県内各地で、いろいろな取組が繰り広げられています。

↓こんな活動をしている地域もあります↓



地域の加工品を販売

雪中綱引き合戦

事例
紹介は

37ページ

事例
紹介は

101ページ

Q 質問 その2

地域づくり活動に取り組みたいと思うが
何から始めたらいいでしょうか？

A 答え

地域にお住まいのみなさんが集まり、顔を合わせることがスタートになります。

集落点検※による地域の見つめ直し、ひとりひとりが持つ地域への愛着や誇り、課題を共有するなどのきっかけづくりから始めてはどうでしょうか？

※集落点検：アンケートや訪問による聞き取りなどを実施して、その結果をまとめて地域のみなさんに集まつていただき報告会を開催して、地域を見つめ直すきっかけをつくる手法です。

ゼロからのスタートで
↓こんな活動が生まれました↓

みつやざわ
三ツ矢沢地域
(鹿角市)



住民ワークショップ
の開催



事例
紹介は

31ページ

みつかたもり
三ツ方森地域
(由利本荘市)



わらび粉づくりの
復活



事例
紹介は

66ページ

うちまち おやしき
内町・御屋敷地域
(湯沢市)



座談会からの
地域づくり



事例
紹介は

94ページ

Q 質問 その3

自治会活動に人が集まらない…
活動の参加者がいつも同じ…
興味をもってもらうにはどうしたらいいですか？

A 答え

これまでの活動についての振り返りの場を持ってみてはどうでしょうか？活動を一人一役にするための「ひとりひとりが活躍できる舞台づくり」について地域のみなさんで話し合いの場を持つことも有効です。

【トピックス】

行動が人の『こころ』を動かす？「まずやってみる」から始まる地域づくり！

自治会・町内会の行事や、地域づくり活動の多くで「人が集まらない…」「若い人が参加してくれない…」など、参加者が少ないと困っている地域は、多いと思います。

そんななか、横手市内の4地域で実施されている共助の取組では年々参加者が増えてきているそうです。

地域の代表にお話しをお伺いすると、「最初は地域のみんなもよく分からなかつたんだと思う。説明するよりも『まずやってみるべ！』ということで活動を始めたら、「来年は俺も手伝うよ」といった声が出てきたんだ」そうです。

『まずやってみるべ！』で起こした行動が地域の方の心を動かしたんですね♪

横手地区での共助の取組は
105ページで紹介します！



Q 質問 その4

若い世代の参加が少ない…
若い世代の参加を増やしたい…
活動に若い世代を参加させるにはどうしたらいいですか？

A 答え

若い世代は、自治会がどのような活動をしているのか、どのように役割が分担されているか知らない場合が多いようです。企画段階で実験的に一世帯から世帯主一人ではなく、複数の参加を募るなどの取組をしてみてはどうでしょうか？

↓こちらの取組には若い世代が参加しています！↓



子供を対象にして開催！ 開催日を固定して実施！

事例
紹介は

97ページ

事例
紹介は

100ページ

Q 質問 その5

地域のつながりが薄くなってきているように感じる。つながりづくりにはどのようなことが有効ですか？

A 答え

運動会、盆踊り、夏祭り、バーベキュー、交流会、フリーマーケットなど地域にお住まいのみなさんが顔を合わせる場づくりから始めてみてはどうでしょうか？

大きな行事が難しい場合は、各世代ごとの交流など、小さいまとまりづくりから始めてみましょう。

↓こんな「つながりづくり」をしている地域もあります↓

おおさわ 大沢地域(藤里町)



地域全体で運動会！

事例
紹介は

46ページ

かみいわかわ 上岩川地域(三種町)



月一回の朝市開催！

事例
紹介は

48ページ

Q 質問 その6

地域の人数が少ないため活動が難しい場合、どのような活動が考えられますか？

A 答え

つながりを持った近隣集落と連携してみてはいかがでしょうか？また、学生や市民団体などの集落以外の方々に手伝ってもらって解決しているケースもあります。

↓「つながる」ことでこんな活動をしています！↓

みつかたもり 三ツ方森地域(由利本荘市)



近隣集落の協力により
山焼きを継続！

事例
紹介は

66ページ

はんどうじ 半道寺地域(大仙市)



9集落が連携した
組織づくり

事例
紹介は

80ページ

Q 質問 その7

組織が大きくてまとまりづらい…
どこから、何から始めたらいいいでしょうか？

A 答え

組織内の班や組など小さい単位でのつながりづくりから始めてはどうでしょうか？

世代別や組織別（老人クラブ、婦人会、子供会など）活動の活発化から始めるなど、小さいまとまり単位の活動を積み上げている地域もあります。

↓大きな地域ではこんな活動をしています！↓

おがなか 男鹿中地域（男鹿市）



各組織が活動し振興会が
まとめ役になり、地域づくり

事例
紹介は

50ページ

ほいまわり 堀回地域（羽後町）



地域のみんなが参加できる
ように工夫した取組

事例
紹介は

101ページ

Q 質問 その8

地域で防災・減災に努めたい。災害が起きたときのため、日頃からどんな準備をしたらいいでしょうか？

A 答え

地域で起こりうる災害の洗い出しや災害時の防災拠点の設定、避難する人、高齢者を助けに行く人、全体をまとめる人など、災害が起きたとき「誰が」、「どう動く」の役割分担などについて話しあってみてはいかがでしょうか？

また、被害の想定と、それに対応した防災備品の準備、発電機等の個人所有備品の把握も有効です。

↓この地域で防災・減災に取り組んでいます！↓

かみまち 上町地域 (能代市)



防災マップづくりなどの
自主防災組織の取組



事例
紹介は

43ページ

はんどうじ 半道寺地域 (大仙市)



9集落がまとまり、
自主防災訓練の取組



事例
紹介は

80ページ

つばきだい 椿台地域 (東成瀬村)



五軒組・要支援者
マップづくりの取組



事例
紹介は

104ページ

Q 質問 その9

地域の高齢世帯が除雪や買い物に不便しています。地域で対応するにはどのようなことが考えられますか？

A 答え

地域で「共助」の組織を設立して、支援が必要な高齢世帯の除雪や雪下ろしを実施している地域があります。また、企業と連携して買い物バスを運行している地域や町内会が中心となって買い物バスを運行している地域もあります。

↓こんな対応をしている地域があります！ ↓

あさみない 浅見内地域(五城目町)



買い物バスツアーの実施

事例
紹介は

58ページ

横手共助モデル地区(横手市)



高齢世帯への雪下ろし・
除雪支援の取組

事例
紹介は

105ページ

Q 質問 その10

高齢者二人だけの世帯、単身高齢者世帯が増えてきています。どうやって地域で支えなければいいでしょうか？

A 答え

健康不安を抱えている高齢者や買い物支援を必要としている方を把握し、「地域で誰を支えるか」、「どのようなサポートができるのか？」などの話し合いから始めてみていかがでしょうか？

健康づくりを目的とした「サロン」活動をしている地域やみなさんで「声かけ・見守り」運動を分担して実施している地域もあります。

↓こんなサポートをしている地域があります！↓

にしの 西野地域(五城目町)



火の用心の実施

きじた 木下地域(横手市)



除排雪支援の実施

事例
紹介は

60ページ

事例
紹介は

90ページ

Q 質問 その11

地域の高齢者の閉じこもりを防止するにはどうすればよいでしょうか？地域内で顔を合わせる機会が少なくなったと感じます…

A 答え

閉じこもりの防止には、高齢者のみなさんが気軽に参加できる場づくりが有効です。

身近な集落会館を「集いの場」として開放している地域もあります。また、主に高齢者を対象とした余興イベントや健康教室を開催した後で、持ち寄り料理で楽しく団らんしている地域もあります。

↓こちらの地域ではこんな「場づくり」をしています♪ ↓

おちあい 落合地域(五城目町)



健康講座の取組

事例
紹介は

62ページ

さかのした 坂之下地域(由利本荘市)



「坂之下サロン」の取組

事例
紹介は

68ページ

Q 質問 その12

子供が減り、行事ができず、地域に元気がなくなってきてています。どんな工夫をしている地域がありますか？

A 答え

近隣の小中学校へも参加を呼びかけたり、高校生や大学生に手伝ってもらったり、地域から離れて暮らしている家族の子供たちへも声をかけて参加してもらうなどの工夫をして、行事を維持したり、復活させたりしている地域もあります。

↓こんな工夫をしている地域もあります↓

ちゅういし 中石地域(男鹿市)



復活「子供神輿」！

事例
紹介は

52ページ

おの 小野地域(湯沢市)



芋の子汁会の開催

事例
紹介は

96ページ

Q 質問 その13

自治会にお金がありません。
自治会収入を安定的に確保するには、
どのような方法がありますか？

A 答え

地域共有の入会地から採取した山菜・きのこや栽培した野菜を持ち寄って直売所を開設したり、道の駅へ共同で出品して、販売収入の一部を自治会会計に算入している地域もあります。

また、採取・加工・販売といった作業を地域内で役割分担することによって、全員参加型の取組にして、連帯感や達成感を深めている地域もあります。 →Q21参照

↓こんな活動をしている地域もあります↓

あかた 赤田地域(由利本荘市)



直売所部会の発足による
直売所開設

事例
紹介は

72ページ

たざわ 田沢地域(仙北市)



販促部の設置

事例
紹介は

84ページ

Q 質問 その14

「地域に眠っている資源（お宝）」と言いますが、何を、どのように活用しているのでしょうか？

A 答え

地域にお住まいのみなさんにとってはありふれているものでも、初めて見る人にはとても魅力的なことがたくさんあります。ぜひ、「外部の視点」を取り入れる機会をつくってみてください。地域内にある資源を外部の視点で見つめ直して、地域に残る豊かな自然・景観、きれいな空気・水等、そのままの姿を魅力的な資源（お宝）として活用している地域もあります。

↓ 地域資源を活用してこんな活動をしています ↓

ばばめ すぎさわ 馬場目・杉沢地域(五城目町)



なかひたね 中直根地域(由利本荘市)



たたず
清流の中佇む
「ネコバリ岩」の保全

事例
紹介は

63ページ

地域を歩く“フットパス”

事例
紹介は

76ページ

Q 質問 その15

地域で「直売所をはじめたい」「地場産食材を使ったお菓子を売りたい」などの声があります。何から始めたらよいですか？

A 答え

地域の組織体制づくりからスタートしましょう。
みんなで地域を見つめ直して、地域の魅力と目標を共有した上で、活動を始めていきましょう。地域の負担にならないように意識していくことも大切です。
また、他地域の活動を、みんなで実際に視察すると、みんなの思いを具体化するきっかけになるようです。

↓こんなことから始めた地域もあります↓

しづかわ 鮎川地域(男鹿市)



週一回開催する
手作りの鮎川直売所

事例
紹介は

54ページ

あまるめ 余目地域(大仙市)



メンバーの手作りによる
直売所・そば処の開設

事例
紹介は

82ページ

Q 質問 その16

他地域から人を呼び込むイベントを、継続的に行うには、どうしたらいいでしょうか？

A 答え

地域に関連した食や資源等、身近なテーマを選ぶことで、地域内の理解や協力が得られやすくなり、継続的な活動がしやすくなる場合が多いようです。

また、子供から大人、高齢者まで幅広く関わることができることにした上で、地域内の多くの人が一つでも役割を持つ形になると、連帯感や達成感が生まれ、息の長い活動につながっていきます。

↓こんな工夫で継続している地域もあります↓

やまだ 山田地域(大館市)



山田“菜”発見市開催

事例
紹介は

35ページ

しらいわ 白岩地域(仙北市)



白岩城址燈火祭開催

事例
紹介は

88ページ

Q 質問 その17

地域で管理している山を活用して、収入につながるような取組をしている地域はありますか？

A 答え

山には、四季を通して、様々な活用方法があります。木材としての価値はもちろん、山菜やきのこといった天然資源を採取して収入源にしたり、観光ワラビ園のように地域の人たちで山を管理し、入園料を徴収している地域もあります。

山は地域のみなさんにとって貴重な財産です。山の恵みを次の世代にきちんと守り伝えていくことも地域にとって大切なことだと思います。→Q13参照。

↓こんな取組をしている地域もあります↓

やまだ 山田地域(大館市)



原木マイタケ栽培

事例
紹介は

36ページ

みつかたもり 三ツ方森地域(由利本荘市)



根花(わらび)粉の商品化

事例
紹介は

66ページ

Q 質問 その18

地域の山にある山菜等が見知らぬ人に採取されているようです。何か良い防止策はありますか？

A 答え

地域が管理している山であることを視覚的に訴える工夫が必要です。看板の設置、ロープを張った囲い込みの他、遠くからも目立つジャンパーを着た管理人が定期的に巡回している地域もあります。

↓こんな工夫をしている地域もあります↓

みつかたもり 三ツ方森地域(由利本荘市)



みつまた 三又地域(横手市)



看板・のぼりの設置

事例
紹介は

65ページ

入口を1箇所に限定し
管理人を常時配置

事例
紹介は

92ページ

Q 質問 その19

豊富にある山菜等を出荷してみたいのですが、どのような方法がありますか？

A 答え

自治会で直売所を運営している地域、ホームページを立ち上げてインターネット販売を行っている地域や首都圏のスーパーへ出荷している地域もあります。

また、一つの地域だけの出荷では販売側の必要数を確保できない場合は、県内の他地域と連携して出荷する仕組みを活用することもできます。

詳しくは、市町村地域コミュニティサポート窓口あるいは県元気ムラ支援室までお問い合わせください。

↓こんな売り方をしている地域もあります↓



インターネット販売

事例
紹介は

38ページ



首都圏スーパーで
店頭販売を実施

事例
紹介は

64ページ

Q 質問 その20

街なかに住んでいます。街なかの自治会で収入や活性化につながる取組にはどのようなものがありますか？

A 答え

街なかの自治会等で、山などの地域資源を持ち合わせていない自治会もたくさんあります。しかし、人が集まる街なかの特性を活用して、廃品回収やフリーマーケット等の活動により地域の財源を生み出している地域があります。

↓こんな取組をしている地域もあります↓

かみまち 上町地域(能代市)



資源ゴミの回収

事例
紹介は

42ページ

自治会・町内会の収入活動例

平成25年度自治会・町内会等の住民自治組織に関するアンケート結果より

- ・納税貯蓄組合からの補助金
- ・水路・道路の草刈受託費
- ・資源ゴミ、古紙回収
- ・自動販売機の販売手数料
- ・財産区、共有林及び農地等活用
- ・地代、会館等使用料の徴収

↓
**別冊第3章
17ページ**

事例
紹介は

Q 質問 その21

町内会活動で収益が生じました。
申告や納税はどうしたらいいでしょうか？

A 答え

みなさんの町内会、自治会、集落会等が認可地縁団体になっている場合は、毎年実施している申告の際に収益を記載してください。認可地縁団体になっていない場合でも、発生した収益について基本的には申告する必要があります。

減免や課税については最終的には税務署の判断によりますので、収益の申告・納税については、最寄りの税務署に相談をしてください。

～認可地縁団体とは～

平成3年の地方自治法の改正により、これまで任意の団体であった自治会・町内会等が、市町村長の認可を得ることによって法律上の権利能力を有する法人として認められるようになりました。

このようにして認められた団体のことを、「認可を受けた地縁による団体（「認可地縁団体」）と呼びます。

認可地縁団体の定義は「一定の区域・地域に住所を有する者の地縁に基づいて形成された団体」であるため、その区域に住所を有する人は誰でも構成員となることができます。

のことにより、これまで自治会長等が個人名義で登記していた集会所などの不動産を、法人格として不動産登記することが可能になりました。

～認可地縁団体にかかる税金あれこれ～

税目	国税			地方税			
	法人税	寄付金税制	消費税	法人県民税	法人市民税	法人事業税	事業所税
認可地縁団体	公益法人等とみなされ、収益事業にのみ課税	税制上の優遇措置なし（普通法人と同じ）	別表第三に掲げる法人とみなす	法人税割：収益事業により生じた所得のみ課税（法人税額を課税標準）	均等割：最低税率	法人県民税と同じ	収益事業により生じた所得のみ課税

Q 質問 その22

番楽などの伝統芸能の後継者が減少してきています。他の地域ではどのような形で対応しているのでしょうか？

A 答え

近隣の集落や小学校、中学校と連携して保存・継承に取り組んでいる地域もあります。番楽などの伝統芸能の後継者は地域住民でなければならないなどの制約も少なくはありませんが、そこにお住まいのみなさんが話し合い、合意のうえ制約を変えていくのであれば、それも保存・継承に向けた一つの手法になると思います。

↓伝統芸能保存のためにこんな取組をしていきます！↓



中学校と連携した
番楽の復活

事例
紹介は

40ページ

Q 質問 その23

伝統行事を復活させたいが、実施してもみんなが参加してくれるかどうか不安です。地域に若い人も少ないし…どうしたらいいでしょうか？

A 答え

「もう一度復活してほしい」、「もう一回見たい」などの「個人の思いをみんなで共有する場づくり」から始めてみましょう。

復活に向けて、人手不足などの問題がある場合は、近隣集落や学生を迎えるなど、外部の協力をもらっての開催を考えることも有効です。 →Q6参照

↓こんなやり方で伝統行事を復活させました！↓

たき 滝地域(由利本荘市)



伝統行事「滝の荷縄はずし」

うちまち 内町・御屋敷地域(湯沢市)



復活！「奉納 恵比寿俵」

事例
紹介は

70ページ

事例
紹介は

94ページ

Q 質問 その24

高齢者が持つわら細工づくり等の技を、若い人に継承する方法はありますか？

A 答え

まずは、地域の中で子供たちが体験し、高齢者から直接学ぶ機会をつくってみてはいかがでしょうか。子供だけの参加から親子での参加へと、地域内の参加から地域外への参加へと、取組の対象を少しずつ広げていくことも一つの方法です。

↓こんな継承活動をしている地域もあります↓

かもあおさ 加茂青砂地域(男鹿市)



あけび蔓細工制作

とうし 冬師地域(にかほ市)



小学生のわら細工体験

事例
紹介は

56ページ

事例
紹介は

78ページ

Q 質問 その25

昔、どの家でも食べていた手作りお菓子を、地域の味として伝えるための方法はないでしょうか？

A 答え

地域内の行事や集まりに、伝統料理を持ち寄ってみることから始めてみてはいかがでしょうか。同じ料理でも、世代間で調理方法が違うこともあります。その違いから世代間の交流が生まれることもあります。

ぜひ、高齢者に先生になってもらい、地域の宝である伝統料理を披露してもらいましょう。味を守るだけではなく、高齢者の活躍の舞台づくりにもつながります。

↓こんな工夫で地域の味を守っています↓

たざわ 田沢地域(仙北市)



伝統料理を持ち寄って
味っこ自慢

事例
紹介は

86ページ

つばきだい 椿台地域(東成瀬村)



“あづきべっち”
お試し販売

事例
紹介は

104ページ

Q 質問 その26

地域で昔から作られてきた伝統野菜、多くの人にその良さを知ってもらいたいのですが…

A 答え

伝統野菜と一般的な野菜との違い、食べている地域の範囲、栽培する際のこだわり、おいしい食べ方等を、地域のみなさんでまとめてみましょう。伝統野菜の特徴を、地域の言葉で伝えることにより、地域外へ流通する可能性も生まれてきます。

↓伝統野菜を守り、PRしている地域もあります↓

まつだて
松館地域(鹿角市)



日本一辛い！
松館しづく大根

事例
紹介は

34ページ

たざわ
田沢地域(仙北市)



栽培技術の伝承
田沢長いも

事例
紹介は

85ページ

活動地域及び事例一覧

各ページの世帯数・人口は全て平成26年3月末時点の調べによります。

No.	市町村名	地域名	掲載活動事例	紹介ページ
1	鹿角市	三ツ矢沢 (みつやざわ)	Q2 住民ワークショップ 31 ページ
2	鹿角市	松館 (まつだて)	Q26 伝統野菜のPR 33 ページ
3	大館市	山田 (やまだ)	Q1 GBビジネスの取組 Q16 山田“菜”発見市の開催 Q17 原木マイタケ栽培 Q19 インターネット販売 35 ページ
4	上小阿仁村	八木沢 (やぎさわ)	Q22 伝統芸能の復活 39 ページ
5	能代市	上町 (かみまち)	Q8 自主防災組織の取組 Q20 街なかの自治会で財源づくり 41 ページ
6	藤里町	大沢 (おおさわ)	Q5 運動会でつながりづくり 45 ページ
7	三種町	上岩川 (かみいわかわ)	Q5 日本一小さい朝市の開催 47 ページ
8	男鹿市	男鹿中 (おがなか)	Q7 振興会が地域のまとめ役 49 ページ
9	男鹿市	中石 (ちゅういし)	Q12 子供神輿の復活 51 ページ
10	男鹿市	鮪川 (しひかわ)	Q15 週1開催の手作り直売所 53 ページ
11	男鹿市	加茂青砂 (かもあおさ)	Q24 あけび蔓細工の継承 55 ページ
12	五城目町	浅見内 (あさみない)	Q9 買い物バスツアー 57 ページ
13	五城目町	西野 (にしの)	Q10 火の用心で見守り活動 59 ページ
14	五城目町	落合 (おちあい)	Q11 健康講座、お茶会の実施 61 ページ
15	五城目町	馬場目・杉沢 (ばばめ・すぎさわ)	Q14 地域資源の活用 Q19 首都圏へ山菜出荷 63 ページ
16	由利本荘市	三ツ方森 (みつかたもり)	Q2 わらび粉づくりの復活 Q6 近隣と連携した山焼きの実施 Q17 根花(わらび)粉の商品化 Q18 入山者向けに看板設置	... 65 ページ
17	由利本荘市	坂之下 (さかのした)	Q11 坂之下サロンを交流の場に	... 67 ページ
18	由利本荘市	滝 (たき)	Q23 伝統行事「荷縄はずし」の復活	... 69 ページ

No.	市町村名	地域名	掲載活動事例	紹介ページ
19	由利本荘市	赤田（あかた）	Q13 直売所の開設 71 ページ
20	由利本荘市	中直根（なかひたね）	Q14 フットパスの開催 75 ページ
21	にかほ市	冬師（とうし）	Q22 冬師番楽の譜面おこし Q24 わら細工体験の開催 77 ページ
22	大仙市	半道寺（はんどうじ）	Q6 9集落で連携した地域づくり Q8 自主防災訓練の取組 79 ページ
23	大仙市	余目（あまるめ）	Q15 直売所、そば処の運営 81 ページ
24	仙北市	田沢（たざわ）	Q13 専門部会による山菜出荷 Q25 「味っこ自慢」の開催 Q26 伝統野菜の継承 83 ページ
25	仙北市	白岩（しらいわ）	Q16 白岩城址燈火祭 87 ページ
26	横手市	木下（きじた）	Q10 除雪支援、 いきいきサロンの実施 89 ページ
27	横手市	三又（みつまた）	Q18 わらび園に管理人を設置	... 91 ページ
28	湯沢市	内町・御屋敷（うちまち・おやしき）	Q2 座談会からの地域づくり Q23 伝統行事・恵比須俵の復活	... 93 ページ
29	湯沢市	小野（おの）	Q4 子供を対象に川遊び Q12 芋の子汁会の開催 95 ページ
30	湯沢市	若畠（わかはた）	Q4 開催日を固定して 若畠紅葉まつりの開催	... 99 ページ
31	羽後町	堀回（ほりまわり）	Q1 雪中綱引きの開催 Q7 地域のみんなが参加できる ように工夫した取組 101 ページ
32	東成瀬村	椿台（つばきだい）	Q8 要支援者マップの制作 Q25 伝統食「あずきでっち」の商品化	... 103 ページ
トピックス	横手市	横手共助モデル地区	Q3 共助組織の結成 Q9 雪おろし、除雪支援の取組	... 105 ページ

地域紹介 その1



住民のワークショップ

平成23年度から、鹿角市役所の職員と秋田看護福祉大学の学生が住民と一緒に地域の将来について話し合う座談会が開催されています。

尾去沢鉱山の山かけの里

三ツ矢沢 みつやざわ 地域(鹿角市)

地域紹介

- 集落数:2
- 世帯数:24世帯
- 人口60人



三ツ矢沢地域は、秋田県の北東部、鹿角市と大館市の境に位置し、尾去沢鉱山との結びつきが深い集落です。



平成24年に鹿角地域全域を舞台にした観光イベント『伝説の里かづの体感泊覧会「でんぱく」』に参加し、三ツ矢沢を会場に観光客を集め好評を博しました。平成26年には、かづの商工会の協力で東京都神田で自慢の漬物販売を行い約300袋の漬物を完売しました。

～三ツ矢沢地域の活動事例～

地域の除雪、頑張ります！



ボランティアによる除雪

除雪車が通ったあとの間口除雪は、高齢者には大変です。そこで三ツ矢沢自治会は、ミニローダーを購入。自治会がボランティアで除雪を行っています。

コラム

～夫婦同伴！～

三ツ矢沢は、基本的に自治会活動へは夫婦で参加します。総会での会食も、男女問わず全員が参加です。

これは、昭和40年代に行われていた「夫婦学級」からの習慣だといいます。

子供がいる人は、両親に預けて必ず出席したといいます。

講演会、料理教室などが開催され、ホテルではテーブルマナーの講習会も行われました。

「地域を元気にするには女性のパワーが欠かせない！」という三ツ矢沢自治会です。

「でんぱく」人気です！



地域のみなさんが案内役

三ツ矢沢自治会では、平成24年から、鹿角市で行われている「伝説の里・かづの体感泊覧会でんぱく」の体験メニューの一つとして、地域の歴史の魅力を集めて「山かけから見た尾去沢鉱山の歴史」を企画し、好評を得ています。



写真は昔、若者が「おこもり」をした神社です。プログラムは、尾去沢鉱山が繁栄していた当時の隣接する集落に住む少年たちの思い出や記憶を、地域のみなさんが語り部となり辿って行きます。

三ツ矢沢は、みんなが助け合い、
地域の魅力を活かして元気になる
自治会を目指し頑張っています！

地域紹介 その2



松館天満宮 例大祭

古くから松館天満宮で4月25日に行われる例大祭。24日の宵宮では地域住民による催し物が披露され、25日に「松館天満宮三台山獅子大權現舞」や「湯立て神事」が盛大に行われます。

日本一辛いしづぼり大根の里

松館 まつだて 地域(鹿角市)

地域紹介

- 集落数: 1
- 世帯数: 52世帯
- 人口240人



松館地域は八幡平地区に属し、JR花輪線陸中大里駅の西側で、この周辺を南北に流れる米代川の西岸の高台に位置しています。



松館地域には「松館天満宮三台山獅子大權現舞」や「祖靈祭」など、数多くの伝統行事が継承されています。古くから集落では「もうす」という同年代同士のグループが作られ、伝統行事の継承や自治会の役員などは、もうすのグループに従い、順番に受け継がれています。

～松館地域の活動事例～

伝統野菜 「松館しづく大根」をPR！



松館地域の「野月」の土壤でしか、
この独特の味が出ません。



JR東日本と鹿角市の協力のもと、伝統野菜
「松館しづく大根」をPRするツアーを開催。

地域の名所や料理を堪能！

昔から地元で栽培されている伝統野菜
「松館しづく大根」を多くの方に知つても
らうため、産地の松館地域を巡るツア
ーを平成25年11月に開催。地元住民がガ
イド役を務めながら地域の名所を巡り、し
づく大根の収穫体験を行ったほか、しづ
く大根を使った料理を堪能しました。

地域を思う心が生んだ 「ジュエリードロップ」



菜種油「ジュエリードロップ」生産者の一人
佐藤正孝さん。



遊休地を活用した菜の花畠。

新たな地域の特産品が誕生！

所有者が高齢となり使われなくなったり
ング畠に野生のクマが山から下りて現れる
ようになりました。そこで住民の安全や
地域の景観をなんとかして守ろうという思
いから、今では、一面に咲き誇った菜の花
畠に生まれ変わり、その菜の花で作られ
た菜種油「ジュエリードロップ」は、高純度
で希少な地域の特産品の一つです。

地域紹介 その3

山田“菜”発見市

平成21年からスタートし、毎年10月又は11月に開催。地域自慢の特産品を販売する「軽トラ市」には、多くの地域住民が参加しています。



一人一役による全員参加型の元気ムラづくり

山田 やまだ 地域(大館市)

地域紹介

- 集落数: 10(常会7)
- 世帯数: 220世帯
- 人口772人



山田地域は、大館市の旧田代町に属し、大館市の市街地から北西の場所に位置します。



『高齢者が生きがいを持って自立できる生活基盤の確立』をテーマに、「山田“菜”発見市」「マイタケオーナー制度」を実施し、県内の複数の地域と連携し、山菜を首都圏に出荷しています。インターネットで通販サイト「達人市場」を立ち上げ集落の情報発信も行っています。

～山田地域の活動事例～

地域の所有林を活用した“原木マイタケ”栽培

天然物に近い香りと味が楽しめる
“原木マイタケ”



オーナーの収穫の様子。



ホダ木にする短木を煮沸消毒。



慎重に行われる植菌作業。

「きのこの里」をめざして

地域で管理している山を活用して行う「原木マイタケ」栽培は、栽培技術の習得や収穫したマイタケの販売はもちろんのこと、オーナー制度の導入やホダ木販売、首都圏での試験栽培等、更に幅広い活動へと展開されています。

～山田地域の活動事例～

G・Bビジネスの取組



既存施設を改修した地域の直売所。



限定オープン日には たくさんのお客様。

『高齢者が生きがいを持って自立できる生活基盤の確立』

山田地域の活動テーマです。

地域の所有林を活用した原木マイタケづくり、首都圏スーパーへの山菜等の出荷等、地域にある天然資源を活用し、それぞれの高齢者が得意分野を活かしながら、生きがいを持って生活できる基盤づくりに取り組んでいます。

山田“菜”発見市の開催



採れたて野菜を軽トラに乗せて販売。



お買い上げのお客様に
さつまいもを掘ってお土
産にできるサービス。

地域のみんなで販売

山田“菜”発見市は、地域総動員のイベントです。

販売には子供たちも携わり、わら細工体験コーナーでは高齢者が先生となって活躍します。

まさに、地域全体でつくりあげている軽トラ市なのです。

～山田地域の活動事例～

インターネット販売・山菜等出荷



首都圏スーパーへ原木ナメコ出荷。

集落のホームページ・インターネット販売。

地域の魅力を地域外へ情報発信

地域の取組を広く知つてもらうために、ホームページを立ち上げ、通販サイト「達人市場」を開設し、インターネット販売を行うとともに、地域の行事や四季折々の地域の様子をブログで紹介しています。

また、首都圏のスーパーへ山菜等を出荷することにより、収入源の確保はもちろんのこと、遠く離れた地域外の人への情報発信の場にもつながっています。

コラム ~山田地域の人材づくり~

次世代へ地域をバトンタッチしていくために、地域の子供たちを新年会に全員参加させ、お祝いしたり、住民運動会や「山田獅子踊り」など子供たちを多く集める行事を積極的に行い、「ここで育った」という意識を植え付けるように取り組んでいます。

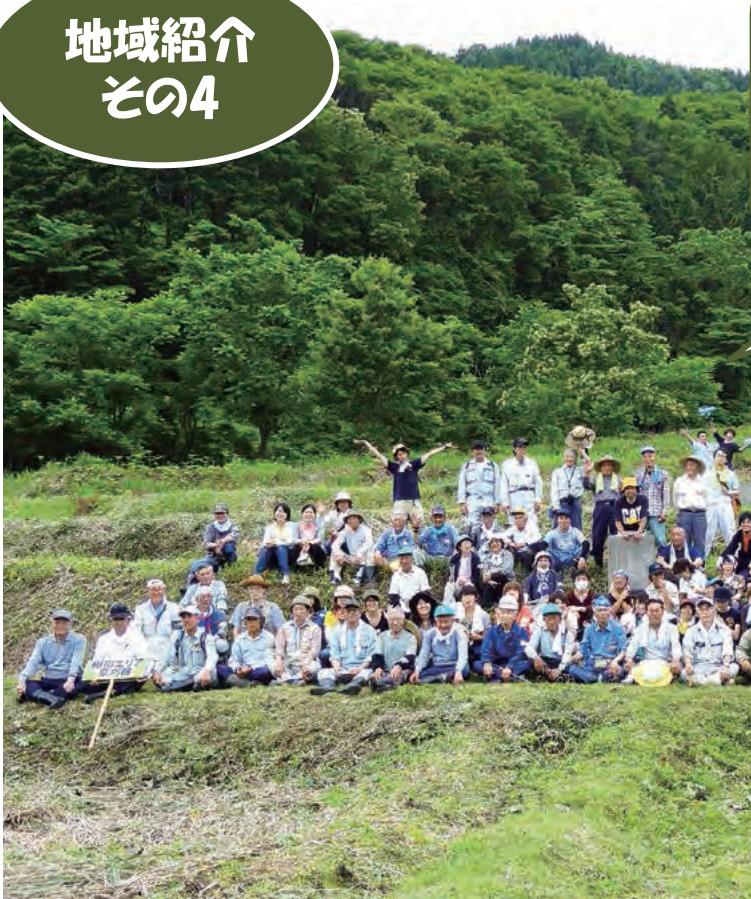


8月13日に行う「山田獅子踊り」で子供たちは演舞を披露します。

奴踊りの合間の
山田の子供たち。



地域紹介 その4



棚田を芸術の舞台に

KAMIKOANIプロジェクト秋田のメイン会場となる八木沢集落の棚田の草刈りに集まつた人々。秋田市や上小阿仁村など、集落外から100人以上集まります。

地域資源を活かした新しい取組

八木沢 やぎざわ 地域(上小阿仁村)

地域紹介

- 集落数: 1
- 世帯数: 9世帯
- 人口18人



上小阿仁村の南端、小阿仁川の最上流部に位置し、国道285号から萩形ダム方面へ南下すると八木沢集落に入ります。



八木沢集落の起源は江戸時代、北秋田市阿仁の根子集落から移り住んだのが始まりとされています。平成21年に秋田県初の地域おこし協力隊2名を受け入れました。都会出身の若者が、集落内外の人々と協力しながら、休耕田の再生や番楽の伝承、高齢者の生活支援などの活動を進めています。

～八木沢地域の活動事例～

地域の枠を越え、中学校と連携した 八木沢番楽の復活・継承



文化10年(1813年)からの歴史をもつ「八木沢番楽」。

週一回の練習のほか、学校の授業や公民館の講座でも練習が行われています。

平成元年頃から途絶えていた八木沢番楽。平成22年に八木沢番楽保存会が、地域の枠を越えた後継者の育成に向け、上小阿仁中学校と、当時八木沢に赴任した地域おこし協力隊の協力を得て番楽の復活に取り組みました。

地域の内外で一体となった取組が実を結び、その年、演目『露はらい』の復活が果たされました。八木沢番楽は、村の祭りや、学校行事などで披露されています。



～集落を舞台とした地域資産を活用した アートの村づくり～

新潟県の「大地の芸術祭」の飛び地開催をきっかけに始まった、地域資産やアートの力を活かした『KAMIKOANI プロジェクト秋田』は、八木沢地域がメイン会場となっています！

開催期間中は、集落の棚田や廃校となった旧分校を舞台にしたインスタレーション作品(※)が展示され、多くの方で賑わいます！



※現代芸術の一つで、様々な素材を配置した展示空間全体を
作品として表現する手法

写真 : KAMIKOANI プロジェクト秋田 2013

地域紹介 その5



常盤(ときわ)ときめき隊の日曜朝市

毎週日曜日(6~11月)に上町で行われる日曜朝市。能代市・常盤地域の農家でつくる「常盤ときめき隊」が新鮮野菜や漬物・お菓子などの郷土料理を販売します。

「街なか」の地域づくり

上町 かみまち 地域(能代市)

地域紹介

- 集落数: 1
- 世帯数: 55世帯
- 人口120人



能代市の中心部、国道101号の東に位置し、周辺には能代市役所などの官庁街もあります。



能代市の官庁街に位置する上町は、車を持たない高齢者が年々増加するなど「街なか」が抱える課題に取り組んでいます。常盤ときめき隊と連携した日曜朝市はもちろん、市内団体や関係機関と連携したイベント「のしろまち灯り」を開催するなどして市街地のにぎわいづくりに取り組んでいます。

～上町地域の活動事例～

街なか自治会の 収入源づくり



資源ゴミを回収した資金を基に町内の
美化活動を行っています。



商店街の空きスペースを活用して、町内の
資源ゴミ回収スペースを設置しました。

資源ゴミは地域資源

上町自治会では、商店が多いことから、段ボール、ペットボトル、ビン・カンなど資源ゴミが多く、自治会でまとめて、廃品回収業者へ渡し、自治会収入としています。

この収入で花の苗を購入し、街なかの美化活動に役立てています。

資源ゴミも、見方を変えれば地域資源の有効活用となっています。

市内団体や関係機関と 連携したにぎわいづくり



夏と冬の年2回開催する「のしろまち灯り」。



まち灯りの主役のロウソクとホルダー。
全てリサイクルです。

できることで連携し、 無理のないイベント開催

地域のにぎわいづくりのため、小学校や養護学校が廃油からロウソクを作り、木材高度加工研究所が間伐材を活用しロウソク台を製作しています。さらに常盤ときめき隊などの能代市内外の市民団体が地域の産物を活かして出店するなど、関係機関と連携し、魅力的なイベントを開催しています。

～上町地域の活動事例～

上町自治会の自主防災の取組



能代市の中心部に位置する上町自治会



どこの家に支援が必要になるか分かるよう、色分けして制作した防災マップ

市の中心部に位置する上町ですが、少子高齢化による人口減少の悩みは農村部と変わりません。むしろ「街なかの方が人口減少は進んでいる」と住民の皆さんには危機感を持っています。そこで、上町自治会は地域を8ブロックに分け「防災責任者」と「情報伝達員」を配置し、災害時に一人暮らしの高齢者などの支援が必要となる家や、日中は留守にしている家などの情報をまとめた防災マップを作成しました。



自治会の女性部による非常食の作り方講習の様子



ハイゼックスシート（非常食袋）を使ってお米を炊く訓練



近隣の自治会と一緒に防災セミナーの打ち合わせを行います。

上町自治会は、平成17年に自主防災組織を立ち上げ、毎年、防災訓練を行っています。近隣自治会と共に防災セミナーを開催するなど、防災と合わせた地域コミュニティの活性化活動が評価され、平成25年度、秋田県優良自主防災組織として表彰されています。

～上町地域の活動事例～

ユニークな「避難所HUG(避難所運営ゲーム)※」

※HUGは、H(hinanzyo 避難所)・U(unei 運営)・G(game ゲーム)の頭文字をとったものです。



家族構成、年齢、性別といった情報が書かれたカードが、続々と配布され、参加者が避難所の図面に配置していきます。

平成26年9月21日、上町自治会は、近隣のサンピノ自治会と合同自主防災訓練を実施しました。この防災訓練では「避難所HUG」を住民の皆さんに体験してもらいました。「避難所HUG」は、自分たちが避難所の運営者となり様々な問題を疑似体験できるゲームです。



上町自治会の一時避難場所にも指定されている「能代ふれあいプラザ・サンピノ」

「避難者の誘導」はもちろん、「けが人や認知症の高齢者の対応」、「マスコミの取材対応」、「災害対策本部からの対応」、「犬、猫といったペット同伴の避難者の対応」などの問題に対処していくなくてはいけません。参加者は「対応に苦慮して、運営の大変さを実感できた。実際はもっと酷い状況になると思う。機会あるごとに訓練を続けていきたい」と話していました。

地域紹介 その6



けやき祭り

40年以上前から続く集落行事。地域に伝わる伝統芸能や老人クラブなどが芸能を披露します。お母さんたちの料理に舌鼓を打ちながら地域全体で楽しむ行事です。

多くの伝統芸能を受け継ぐ里

大沢おおさわ 地域(藤里町)

地域紹介

- 集落数: 1
- 世帯数: 174世帯
- 人口509人



大沢地域は、藤里町中心部の南側に位置しており、約400年前に豊臣方の落ち武者が住み着いたといわれています。



秋田県指定天然記念物の「水神様の大櫻(おおけやき)」が地域のシンボルで、集落会館は「けやきの館」と呼ばれ、昔ながらの行事を受け継ぎながら住民の交流をするお祭りも親しみを込めて「けやき祭り」と呼ばれています。5月に行われる熊野神社祭典では地域に伝わる壯士舞などの伝統芸能が地域内で優雅に舞われます。

～大沢地域の活動事例～

地域一体となって 伝統芸能を保存・継承！



大沢壮士舞保存会の皆さん。



10月の藤里町文化祭では練習した壮士舞を披露。

地域全体で受け継ぐ伝統

以前は、地元の有志で組織する「壮士舞保存会」が単独で保存に取り組んでいましたが、「地域全体で取り組もう」との声があがり、今では、藤里町教育委員会が地元の子供たちに郷土芸能や文化を学んでもらうため「少年教室」を開催するなど、自治会や教育委員会が一体となって保存に取り組んでいます。

また、かつては女性のみに受け継がっていましたが、現在は男性や、地域外の子供も参加し、より多くの人に受け継がれるよう取り組んでいます。

地域の団結力を生む 「大沢の運動会」



毎年9月の第3日曜日に行う大沢の運動会。



藤里幼稚園の子供たち。

世代を超えて楽しむ運動会

子供から大人、高齢者まで、地域みんなのつながりを大事にしてほしいとの思いから、大沢地域で長年続いている「運動会」。地域の子供たちが通う藤里幼稚園の園児たちも参加します。

園児たちのお遊戯発表や地域ならではの趣向のこらされた競技の数々が行われ、また、競技者を年齢ごとに区切るなど、みんなが楽しめる工夫がされています。

競技終了後は、たくさんの郷土料理を囲みながらの大抽選会が行われ、地域住民の絆がより深まります。

地域紹介 その7



女性が元気な上岩川地域

黄色いエプロンの女性は会を支えるお母さんたち。写真は平成23年に上岩川で開催された集落交流の様子。五城目町、上小阿仁村の皆さんに上岩川の味に触れてもらいました。

房住山伝説の里

上岩川 かみいわかわ 地域(三種町)

地域紹介

- 集落数: 15
- 世帯数: 263世帯
- 人口587人



三種町の旧琴丘町に位置。上小阿仁村と五城目町の境にある地域です。



伝説に彩られた標高409mの「房住山」。地域おこしグループ「房住里の会」の名前の由来となっています。房住里の会は平成23年度、農林水産省主催の豊かなむらづくり全国表彰事業で東北農政局長賞を受賞しました。8月のねぶ流し、1月の雪中ジャンボカルタ大会、2月の鳥追いと昔ながらの地域行事も盛んです。

～上岩川地域の活動事例～

伝統行事 ねぶ流し



「ケガジ(飢渴)を流し、豊作を祈る」行事で、毎年8月上旬に行われています。高齢化により存続を危ぶまれましたが、県立大生も参加し、継続しています。

コラム

～ニワダマ鍋！～

上岩川特産の岩川地鶏（ニワトリ）からダシをふんだんにとった「だまこ鍋」です。特にお盆、正月など、親戚が集まる際には欠かせません。「ニワダマ鍋」は、上岩川地域の食卓への登場回数が最も多い“上岩川の母の味”です。



上岩川ふるさと交流館



房住里の会の拠点施設。会員が力を合わせて空き店舗を改修した手作りの交流施設です。手作りマップや年中行事の写真、観光情報、地域の方々のクラフト作品や絵画などが展示され、住民の交流の場となっています。

日本一小さい朝市



房住里の会の朝市は、上岩川ふるさと交流館を会場に毎月第1日曜日、午前8時から午前中の間に開催しています。商品が完売したら、その時点で終了です。まつりと開催していますので、ぜひ一度訪れてみてくださいね。

地域紹介 その8

男鹿中の朝市

平成24年から男鹿中公民館を会場に「朝市」を試験的に始めました。また高齢者の一人暮らしへの買い物支援を目的に「移動朝市」も開催。



旧保育所を活用した地域づくり

男鹿中おがなか 地域(男鹿市)

地域紹介

- 集落数: 10
- 世帯数: 653世帯
- 人口1, 284人



男鹿半島の真ん中に位置し、北は日本海、東に真山、西に寒風山に囲まれています。



男鹿中地域は10の集落で構成され、「男鹿中振興会」が地域と行政の窓口役を務めています。男鹿市の有形文化財の南北朝時代の板碑や、江戸時代の紀行家・菅江真澄の足跡が多く残されており、地域行事「なまはげ」や「盆踊り」を続けている集落もあります。

～男鹿中地域の活動事例～

地域のまとめ役 男鹿中振興会



1月に開催する「新春のつどい」には各集落をはじめ、男鹿中の各団体が参加。



地域の有志でつくる「地域おこし会」が平成24年から「さなぶり歌謡ショー」を開催しています。

「出来ることからやっていこう」

男鹿中振興会は地域内10集落の代表と各種団体で構成されています。いわば地域の「まとめ役」、住民の希望を行政とつなぐ役割や、「新春のつどい」や「シンポジウム」の開催など主体的に地域の活性化に向けて取り組んでいます。

高齢者助かる、 男鹿中の朝市



男鹿市の男鹿中出張所・公民館前で試験的に始めた朝市の様子。



出張所から離れている集落には、朝市の商品を車に積み込んで販売もしています。

高齢者の方に好評です！

朝市は、まだ試験段階ですが、住民自らが「朝市実行委員会」を組織し、平成24年8月から地域内の買物支援に取り組んでいます。毎月2回、第2・第4の日曜日8時～9時30分頃。(冬期間休業)

地域紹介 その9

男鹿梨まつり

中石果樹組合が主催するお祭りで、毎年10月に行われています。地域内の梨園が開放され、梨狩りが体験できるほか、梨選果場では様々なゲームや催し物が行われます。



北東北最大の和梨の産地

中石 ちゅういし 地域(男鹿市)

地域紹介

- 集落数: 1
- 世帯数: 90世帯
- 人口218人



中石地域は、男鹿半島の付け根、北側に位置し、南に寒風山、北から南は日本海と、海と山に囲まれている地域です。



中石地域は北東北最大の和梨の生産地として知られています。毎年10月には男鹿梨まつりが開かれ、たくさんの人々で賑わいます。地域には百万遍念佛や盆踊り、なまはげなどの古くから受け継がれている行事があり、地域に帰省する方々が安心できるように環境美化などの意識を強く持つ地域です。平成12年(2000年)には「農林水産省」の「むらづくり部門」で「内閣総理大臣賞」を受賞しました。

～中石地域の活動事例～

復活「子供神輿」！



4月29日の五里合神社の例祭では、「子供神輿」の運行を行います。中石公民館向かいのお堂にみんなで参拝後、出発です！



子供がたくさん集まります。この日は普段、地域から離れて暮らしているお孫さんたちもお神輿に参加します。

中石地域では、子供が少なくなり、お神輿奉納が一度途絶えてしまったのですが、地域に縁のある子供たちも参加できるように話し合い、声かけを行って、平成25年に復活することになりました。

集落の子も、帰省してきた子も
みんな、中石の子供たちです！

中石伝承会が行事を継承



8月15日に開催する「盆踊り」は古くから伝わる住民のお楽しみ行事。仮装姿で参加して行事を盛り上げます。



大晦日に行う「なまはげ」。地域の若者と中石自治会では「中石伝承会」を立ち上げ、盆踊りやなまはげといった伝統行事を継続しています。

広報「たかおか山」の制作



自治会が独自に22年間制作している広報「たかおか山(さん)」。行事に参加できなかつた人に情報を伝えています。

地域紹介 その10



滝の頭湧水地

1日あたり2万5千トンの湧出量を誇る、男鹿市屈指の一大湧水地。古くから飲料水や農業用水に利用されています。

滝の頭の名水を活かした地域おこし

鮎川しびかわ 地域(男鹿市)

地域紹介

- 集落数: 1
- 世帯数: 90世帯
- 人口234人



男鹿半島の北東部、寒風山の東に位置する五里合地域の中の集落です。



地域内にある「滝の頭湧水地」の水を活かし、クレソンやジュンサイの栽培を行っています。「水」が地域のシンボルで、毎年5月28日は、滝の頭の守り神「今木神社」の祭典を鮎川自治会が主催で行います。農村地帯ですが、すぐ側は日本海で、海の幸、山の幸に恵まれた地域です。

～鮎川地域の活動事例～

「滝の頭クレソン」の栽培



まろやかな食感が好評のクレソンは、市内外に販路を拡大しています。



クレソンの調理法も研究。写真は「クレソンのしゃぶしゃぶ」。

豊かな水の郷を誇りに

地域内に位置する滝の頭は男鹿市で一番の水瓶であり、1日2万5千トンもの湧出量を誇る豊かで綺麗な湧水です。この水を活用して、何か特産品ができるないかという思いが、クレソン栽培挑戦のきっかけとなりました。

鮎川直売所の運営



新鮮な野菜と魚が並ぶ直売所。自治会役員の自宅敷地内にテントを設置。



五里合地区の住民が集まる直売所は週に一度のコミュニケーションの場。

地域の中に新しい経済を

クレソンの栽培とともに力を入れているのが、直売所の運営です。毎週水曜の午後のみの営業(冬期間休業)ですが、顔馴染みのお客様も少しずつ増えてきました。地域住民が気軽に参加できる活動の中で、地域に根ざした取組となっています。

地域紹介 その11



大漁旗と「だだだこ盆踊り」

江戸時代の紀行家、菅江真澄が記録に残しており、現在も行事などで踊られています。力強い太鼓の拍子と、さざ波を連想させる踊り手の手つきが漁師町の風流を感じさせます。

古くからの史跡が残る漁師町

加茂青砂 かもあおさ 地域(男鹿市)

地域紹介

- 集落数: 1
- 世帯数: 63世帯
- 人口123人

加茂青砂地域は、男鹿半島の西海岸に位置し、南北800メートルほどの磯に沿って形成された集落です。



加茂青砂地域

広大な海が目前に広がり、漁業が盛んな地域です。江戸時代には紀行家の菅江真澄が加茂青砂地域に訪れ、「だだだこ盆踊り」が記録に残る、歴史ある地域です。西海岸最大級の洞窟「カンカネ洞」や、男鹿市指定文化財の「石仏龕(せきぶつがん)」など、古くからの史跡が残る地域です。

～加茂青砂地域の活動事例～

加茂青砂地域の伝統工芸品 「こだし」と「あけび蔓細工」



山菜や海藻を入れるカゴ「こだし」。



あけび蔓細工の
制作。



材料は「アオツヅラフジ」という植物のツル
加茂青砂地域では「トジナ」と呼びます。



「かもあおさ笑楽校(しょうがっこく)」を通じた体験教室

「旧加茂青砂小学校の側に佇む桜の木を元気づけたい」と始まった「かもあおさ笑楽校」は、平成23年～平成24年の間に加茂青砂地域で開催された体験教室イベントです。地域に受け継がれてきた「こだし」や「あけび蔓細工」などの作り方を、地元の皆さんのが講師となって参加者に教えました。

当初、教えることに慣れていないかった地元の方も、「あけび蔓細工」や「こだし」づくりを通じ、生徒たちと打ち解けていく姿がとても印象的です。「かもあおさ笑楽校」にはたくさんのかわいい笑顔と元気が集まり、「また来たい！」と話す人々が多く見られました。

地域紹介 その12

浅見内神明社祭典

浅見内神明社は奈良時代からの歴史が伝わり、神事にも古くからの形式が見られます。悠久の伝統は地域の誇りです。



「ちょっとした困りごと」を助ける新たな取組

浅見内あさみない 地域(五城目町)

地域紹介

- 集落数: 1
- 世帯数: 114世帯
- 人口285人



浅見内地域

浅見内地域は、五城目町の北東部の山間部に位置する内川地域に属し、三種町に隣接している集落です。



地域内には奈良時代から鎮座する「浅見内神明社」があり、五城目町の3集落に伝えられるお神輿のうち、1つが浅見内神明社に伝えられています。浅見内活性化委員会が立ち上がり、百万遍念佛の復活や除雪支援など活発な活動が行われています。

～浅見内地域の活動事例～

「浅見内活性化委員会」の取組 ～買い物バスツアー・サロンの実施～



「買い物バスツアー」



「新春サロンかるた会」



「買い物バスでのおでかけは遠足みたいで楽しい」と大好評です♪



みんなで作ったケーキで「クリスマス会」。



浅見内地域の
オリジナルカルタ。



浅見内地域の方言や、伝説などの「地域の宝物」をテーマにみんなで考えた浅見内地域オリジナルカルタ。「あ」から始まるカルタが複数あるなど、1文字につき1枚ではないため取る方も「ドキドキして楽しい！」そうです。

浅見内地域では、「浅見内活性化委員会」が中心となって地域の元氣づくりを頑張っています。「浅見内活性化委員会」では様々な活動に取り組んでいますが、中でも「買い物バスツアー」と折々に開催される「サロン」の実施は地域で大好評です。

「買い物バス」は、地域で参加者を募り、1人500円の参加料で運行していて、参加料で不足する分のバスの借り上げ代は町内会が負担しています。買い物バスの車中では楽しい話に花が咲き、「遠足みたいで楽しい！」と評判です。

また、年に数回開催される「サロン」は、「クリスマスケーキづくり」や「オリジナルカルタづくり」など、参加者が楽しめる工夫が盛り込まれ、毎回楽しみにしている方がたくさんます。

地域紹介 その13



西野八幡神社例大祭

神様をもてなす「例大祭」で行われる神事「統前落としの儀」は神様に次の年の「統前(当番)」を決めていただく大切な行事です。神様への感謝の気持ちが例大祭に現れています。

伝統と人を大切にする田園の里

西野 にしの 地域(五城目町)

地域紹介

- 集落数: 1
- 世帯数: 63世帯
- 人口184人



西野地域は国道285号沿いにあるショッピングモールの裏側に位置し、広大な田園と五城目町のシンボル「森山」の風景が美しい地域です。



西野地域には400年以上の歴史を持つ「西野八幡神社」が鎮座しています。八幡神社には3つのお祭りがあり、町内会で守り伝えています。老人クラブ「松鶴会(しょうかくかい)」では百万遍念佛が受け継がれているほか、花だん作りの活動も活発です。

～西野地域の活動事例～

一人一人が地域を守る 「火の用心」！



拍子木を鳴らしながら地域を見守ります。



火の用心の道具を次の当番へまわすときに自然と交流が生まれ、「見守り」にも繋がります。

「地域を守る」意識は 世代を超えて

西野地域では、昭和38年から住民による地域の見回り「火の用心」が続けられています。火の用心を始めてからこれまで50年以上もの間、地域では火災が起きていません。

地域住民全体で行うこの取組が、ひとりひとりに「自分たちの地域を守る」という責任感を持たせ、地域の安全・安心につながっています。

新たな地域の交流の場 「西野住民交流会」



たくさんの地域住民が集まりました。



みんなで楽しく料理を囲んで大盛り上がり。

地域みんなが笑顔に なれるように

西野地域では、盆踊り、運動会など、地域住民が集まる行事がたくさんありました。しかし、参加者の減少に伴い徐々に行事もなくなってしまいました。

そこで、「地域の皆さんを、『人』を大切にしたい」との思いから、平成20年から新たに、地域の皆さんのが集まる場として「西野住民交流会」を開催し、楽しいイベントやおいしい料理を囲みながら交流を深めています。できることから少しづつ、地域のみんなが笑顔になれる新たな取組が地域の絆を生んでいます。

地域紹介 その14



落合まつり

平成23年11月に、男鹿市の「戸賀浜のかあちゃん」を招き、自慢の郷土料理や、山と海の幸を使って作った料理を味わいながら、ショーを楽しみました。

一人一人が輝く里

落合おちあい 地域(五城目町)

地域紹介

- 集落数: 1
- 世帯数: 30世帯
- 人口63人



落合地域は五城目町の国道285号沿い、馬場目地域にほど近い場所に位置しています。



落合地域には、「地域に住む人が宝物」と、地域一人一人が得意とするものをマップにまとめた「一人一役マップ」があります。そのマップをきっかけに結成された「落合鶴亀漫芸一座」はハーモニカ、舞踊、民謡、手品など芸が得意な皆さんが出でた一座です。一座が届ける笑いや感動は五城目町のみならず、男鹿市などから依頼が来るほどの人気があります。

～落合地域の活動事例～

みんなが気軽に集まれる
「健康講座とお茶会」！



落合地域の拠点施設
「中津又地区コミュニティセンター」。



毎月第3月曜日に開催される
「健康講座」の様子。

月一の健康講座で交流を深める

落合地域では、毎月第3月曜日に地域にある「中津又地区コミュニティセンター」を会場に血圧測定や健康講話などの「健康講座」を開催しています。

健康講座の後は、みんなで持ち寄った料理を囲みながら楽しく団らんします。

地域のみんなが気軽に集まれる場として地域の会館を活用し、住民同士の交流を深めています。

地域の誇る“お宝”は
地域に住む人々！



必ず一人に一つはある得意技を載せた
「一人一役マップ」。



一人一役マップをきっかけに結成された
「落合鶴亀漫芸一座」。

地域が誇る「笑い」の伝道師

“地域の誇るお宝は人材だ！”という落合地域では、地域に住んでいるみんなの様々な特技をまとめた「一人一役マップ」をつくりました。この「一人一役マップ」がきっかけとなり、歌や踊り、楽器演奏などが得意な人たちが集まり「落合鶴亀漫芸一座」が誕生しました。

一座は、地域内だけでなく、他の地域で公演を行うなど、市町村を越えた集落同士の交流を広げています。

地域紹介 その15



ネコバリ岩

もとは馬場目川上流に佇む名も無き巨岩。映画「釣りキチ三平」のロケ地になったのをきっかけに、五城目町を代表する人気スポットに。地元の人が「根古波離岩」と名付け、「ネコバリくん」というキャラクターも作っています。

農家レストランの運営

馬場目・杉沢 ばばめ すぎさわ 地域(五城目町)

地域紹介

- 集落数: 4
- 世帯数: 96世帯
- 人口227人



馬場目・杉沢
地域

五城目町を東西に流れる馬場目川の上流域に沿って点在する4つの集落で構成されます。豊かな自然や森林資源に恵まれた地域です。



地域住民による村おこしグループ「清流の会」が結成され、馬場目側上流の「ネコバリ岩」の保全、地元で採れた天然山菜などを首都圏に出荷しています。古民家を活用した宿泊施設「盆城庵」や農家レストラン「清流の森」を営むなど、都市農村交流活動にも積極的に取り組んでいます。

～馬場目・杉沢地域の活動事例～

「清流の会」の結成



活動拠点の「友愛館」は閉校した
旧杉沢小中学校の校舎を利用。



首都圏のイベントでの山菜販売。
(首都圏在住のふるさと五城目会との
連携による販売)

G・Bビジネスの取組

村おこしグループ「清流の会」は地域のシンボルであった杉沢小中学校の廃校をきっかけに結成されました。地域で採れた山菜や新鮮野菜を首都圏のスーパーなどの小売店に出荷する取組を行っています。

農家レストランの運営



平成22年にオープンし、清流の会で運営する
農家レストラン「清流の森」。



地元で採れた山菜、野菜が入った
人気メニュー「清流定食」。

地場産品の提供

地元で採れた新鮮で安全な野菜や山菜にこだわった、地域ならではの料理が味わえます。直売コーナーも充実しているので、料理で味わった食材を自宅に持ち帰って楽しめるのも魅力です。

地域紹介 その16



入山料お願いの看板を設置

良質なワラビが採れることから、県内外から山菜採りファンが訪れる三ツ方森。「入山料」のお願いを記した看板を設置し、支払われた入山料は「山焼き協力金」として、毎年4月又は5月に行う山焼きの維持管理費にあてています。

根花(わらび)粉の商品化

三ツ方森 みつかたもり 地域(由利本荘市)

地域紹介

- 集落数: 1
- 世帯数: 5世帯
- 人口9人



三ツ方森地域は、由利本荘市の東部、内陸部で標高250mの高地に位置。天然のミズ、山椒やワラビなどが豊富な山間集落です。



江戸時代、本荘藩、矢島藩、亀田藩の藩境に位置し、藩境の監視を任されていました。三方を見渡せることから「三ツ方森」と地名が名付けられたと伝わります。住民は名字帯刀を許され「猪股姓」を名乗っています。毎年4月末に行う「山焼き」は300年続く地域の伝統の行事です。

～三ツ方森地域の活動事例～

外部と連携した伝統行事の継続



300年の伝統を持つ「山焼き」。



近隣集落から協力をもらい、今も山焼き行事を継続しています。

地域内外で共に支える伝統

見晴らしの良い山の稜線付近に居を構える三ツ方森地域は、広大なわらび山でも知られています。このわらび山はおよそ300年前より続く「山焼き」など、地域のみなさんの管理により守られてきました。

その山焼きも、十数年前に人手不足で継続の危機を迎えたのですが、その際近隣集落の方や地元大学生の協力を得たことにより今も継続されています。

座談会から生まれた地域資源を活かす取組



あるおばあちゃんの一言から始まったわらび粉づくり。



三ツ方森地域に伝わる「根花餅」。

「三ツ方森産わらび粉」100%で作ったわらび餅。

「もう一度食べたい」そのひとことが起爆剤に

山の上に位置し、田んぼが少ない三ツ方森地域ではその昔、豊富なわらび山の資源を活かした「根花粉(ねばなこ=わらび粉)」が貴重な食料となっていて、「根花粉づくり」は子供の仕事だったそうです。地域で実施した座談会で、あるおばあちゃんが言った「もう一度根花の餅が食べたいなあ」から始まった根花粉づくり。試行錯誤の末、根花粉づくりが見事復活し、現在、三ツ方森では、わらび粉の商品化に取り組んでいます。

地域紹介 その17



秋田市の子供たちが坂之下に

由利高原鉄道株式会社主催の夏休み親子体験ツアーの様子。秋田市や由利本荘市の親子が坂之下でじゃがいも掘りやピザ焼き体験を楽しみました。

蕎麦と石窯で交流体験

坂之下さかのした 地域(由利本荘市)

地域紹介

- 集落数: 1
- 世帯数: 64世帯
- 人口224人



由利本荘市の南、旧矢島町に位置。地域内を流れる子吉川では、鮎、サクラマスが豊富に採れる人気の釣りスポット。



農家民宿「自然満喫家」や鳥海山国際禅堂などの体験施設があり、集落後方にそびえる神代山・八塩山は、トレッキングコースが整備されています。坂之下集落の「そばの会」を中心に石窯ピザ作りや蕎麦打ち体験を行っており、近年、留学生の民泊や観光ツアー客の受け入れもしています。

～坂之下地域の活動事例～

坂之下のサロン



ボランティアによる余興を楽しむ住民の皆さん。



坂之下サロンをサポートする自治会の皆さん。



坂之下会館。



昼食の手打ち蕎麦。

住民が集まる場づくり

由利本荘市では高齢者が気軽に集い、語らえるよう、「ミニディイサービス」を各地で開催しています。坂之下地域は平成26年2月にサロンを立ち上げ、冬期間、月一回のペースで集落会館に住民が集まり、ボランティアの余興などを楽しむ場づくりが行われています。

休耕田の活用



地域の高台にある休耕田。



親子体験ツアーのじゃがいも掘り体験。

蕎麦、野菜づくりに挑戦

平成23年から地域の高台にある休耕田に蕎麦や野菜(大根、カブ、じゃがいも等)を植えています。収穫した物は、地域の交流イベントや観光ツアーなど外部の人々を受け入れた際に収穫体験やおもてなし料理として提供しています。

また、休耕田がある場所は鳥海山や地域を見渡せる絶好のポイントで、坐禅ができる「鳥海山国際禪堂」もあります。平成25年には国民文化祭事業の一環で「フットパス」を実施し、観光客に坐禅を体験してもらいました。

地域紹介 その18



洞参り

滝地域の山の中腹にある洞窟へ向け、険しい山道を登ります。豊作と村内安全を祈って毎年6月中旬に行われます。

林業で栄えた山間の里

滝たき 地域(由利本荘市)

地域紹介

- 集落数: 1
- 世帯数: 61世帯
- 人口164人



滝地域は由利本荘市旧大内町、子吉川水域に広がる山間の集落です。



滝地域は林業で栄えた地域で、地域内を流れる川や滝に山で切った木材を流し、長い棒を使って運んでいました。地域にそびえる山の中腹には、険しい山を登らなくてはたどり着けない洞窟があり、豊作と村内安全を願い、毎年6月中旬に「洞参り」が行われています。林業で培った力や知恵が現代にも活き、洞参りは大切に継承されています。

～滝地域の活動事例～

伝統行事の復活！滝地域の「荷縄はずし」



荷縄はずしに集まった
滝町内会と国際教養大学の学生のみなさん。



子供たちの大根収穫体験。



地元のお母さんたちが作ったお料理。



地域住民の炭焼き小屋を見学。

一年間の労をねぎらう「荷縄(になわ)はずし」

秋の収穫が終わり、作物を運んだ縄を肩からおろして今年の苦労をみんなで労おうと行われていたお祭りが「荷縄はずし」です。滝地域で長い間、中断していた行事ですが、「由利本荘市集落活性化プラン」の一環で市から委託を受けた国際教養大学と一緒に平成23年に行事を復活させました。

平成23年の「荷縄はずし」には大学生や職員、その子供たちも参加し、住民の皆さんと交流を行っています。

地域紹介 その19



赤田大仏まつり

8月22日に長谷寺と赤田神明社で開催する神仏混合の全国的にも珍しいお祭り。奉納芸能には100名を超える人々が集まる赤田を代表する祭典です。

是山和尚ゆかりの信仰の里

赤田 あかた 地域(由利本荘市)

地域紹介

- 集落数: 1
- 世帯数: 112世帯
- 人口365人



由利本荘市の北部の山間地に位置。赤田川上流には高さ23mの赤田大滝、地域の東には東光山が鎮座し、住民の信仰を集めています。



江戸時代「赤田の閑居様」と地域の人々に慕われた「是山和尚」に関する史跡が多く残り、日本三大長谷観音の一つ「赤田の大仏」がある長谷寺(ちょうこくじ)には多くの観光客が足を運びます。近年、地域の拠点施設「東光館」周辺に、赤田町内会が直売所や加工所を設置しています。

～赤田地域の活動事例～

町内会によるG・Bビジネス活動



「赤田ふれあい直売所」の開設。
(直売部会員の当番制による販売)



公民館と一緒にになった「ふれあい加工所」。
(国の事業を活用し加工施設を建設)



首都圏で店頭販売を行う部会員。
(千葉県柏市のスーパー)



ピザ焼き体験による
交流の場の創設。



拠点施設「東光館」を中心に据えたビジネス展開

赤田地域には「赤田の大仏」という地域資源があり、地域を訪れるお客様を対象としたビジネス展開を行っています。そのため、町内会内に直売部門を設置し直売所を開設したほか、首都圏への山菜等の出荷、ピザ焼き体験やそば打ち体験の実施、地域文化遺産を見学するサイクリングコースの整備などの活動に取り組んでいます。また、加工所を新設し山菜等の加工商品の開発を行うなど新たな収入源づくりに挑戦しています。

～赤田地域の活動事例～

伝統文化の保存



「ふれあい加工所」の竣工式での儀式の様子。

赤田獅子舞の奉納

赤田の獅子舞は「大般若」や「赤田大仏祭り」などの行事で奉納されるほか、新築住宅等の竣工式などでも舞われます。



2月、「大般若経」に合わせて行われる練り歩き行事の様子。



赤田大仏祭りでの赤田獅子舞の奉納。



伝統芸能等保存伝習施設「東光館」。

是山和尚の教え

長谷寺を創建した名僧・是山和尚は、赤田獅子舞の他にも数多くの芸能を伝え、地域ではその教えを現在まで脈々と伝えています。また、東光館には是山和尚ゆかりの品や赤田出身の日本画家・堀川達三郎の作品が展示されているほか、陶芸教室等も開かれ人々の交流の場に利用されています。

～赤田地域の活動事例～

地域で支える「赤田大仏祭り」



大仏の分身を載せたお神輿。



お神輿の前後を練り歩く
赤田獅子舞などの芸能
集団。



一戸一戸に役割があるお祭り

全国的にも珍しい神道と仏教が融合した「神仏混交」のお祭りで、200年以上続き一度も中止されたことはない赤田の伝統行事です。大仏の分身をいれたお神輿が長谷寺から神明社に移して一夜を明かし、翌日に長谷寺をめざし神明社を出発します。この祭りには180もの役割があり、それを約110戸で分担するなど地域全体で支えるお祭りとなっています。



～長谷寺の「赤田の大仏」～

赤田地域にある長谷寺は曹洞宗の寺院で、高さ9mの十一面觀音立像が安置されており、通称「赤田の大仏」として親しまれています。また、奈良県桜井市の長谷寺、神奈川県鎌倉市の長谷寺と並んで、日本三大長谷觀音の一つと言われています。



赤田の大仏



あけびを特産品に

地域の特産品「あけび」を活用したワークショップを開催し、あけび蔓細工を勉強中です。

あけびと石窯で地域づくり

中直根なかひたね 地域(由利本荘市)

地域紹介

- 集落数: 1
- 世帯数: 47世帯
- 人口144人



由利本荘市の南東、旧鳥海町の標高250mの高地に位置。周辺には名瀑「法体の滝」があります。



地元の有志「若勢会」を中心に「あけび」を活かした地域づくりに取り組んでいます。毎年、中直根町内会が主催する3月初旬の「雪んこまつり」、7月中旬の「ビール祭り」は40年以上続く地域の恒例行事です。平成23年には石窯を設置し、ピザ作りを通じた外部との交流体験も行っています。

～中直根地域の活動事例～

地域の多彩な文化に触れる！「フットパス」



稻穂がたなびく中直根地域を歩く参加者の皆さん。



地域の菩提寺「正重寺」。



ピザ焼き体験の様子。生地作りから食材のトッピングまで、地元のお母さんに教わりながらの体験。



フットパスで堪能した秋の味覚。

地域の史跡巡りと一緒に、ピザ焼き体験

由利本荘市は、市内の多彩な文化に触れてもらおうと、地域のありのままの風景を楽しみながら歩く体験ツアーを行っています。中直根地域は平成25年に国民文化祭イベントとしてフットパスを開催しています。

地元住民の方がガイド役となり、地域内の直根神社や正重寺、コッコファームなどを巡り、参加者はいい汗をかいだ後、地元特産の「百宅そば」や「あけび」、石窯で焼いたピザを堪能しました。

地域紹介 その21



大学生が田植え体験

田植え、稻刈り、わら細作り体験を行っています。秋田県内の大学生グループや、地元にかほ市の子供たちが参加しています。

番楽とわら細工の里

冬師とうし 地域(にかほ市)

地域紹介

- 集落数:1
- 世帯数:31世帯
- 人口 88人



にかほ市の東部、鳥海山の麓に位置。約260ヘクタールの雄大な冬師湿原はカメラマン人気のスポットです。



風光明媚な風景で知られる冬師集落は、県重要無形民俗文化財「冬師番楽」が伝わる地域です。古くからわら細作りが盛んで、今も70~90歳の女性たちでつくる「冬師集落伝統細工製作グループ」が業者から受注して現役でわら細工を製作しています。

～冬師地域の活動事例～

伝統芸能の保存に向けた 新しい取組



「冬師番楽」



冬師番楽の保存に
向けた「譜面おこし」座談会の様子。

担い手が練習しやすい 環境づくり

これまで「冬師番楽」は番楽保存会により守り継がれてきましたが、近年の後継者不足から、「地域の宝」である番楽を守ろうと、冬師地域の自治会でも保存に協力することになりました。保存に向けた話し合いの中で、一番の課題として笛の吹き手がいないことが上げられたところから、現在、番楽の譜面化による「一人でも練習できる環境づくり」を進め、それに合わせ、仕事や就学により地域を離れている冬師出身者も巻き込み後継者の育成に取り組んでいます。

地域の伝統工芸を 守る取組



「田植え・稲刈り体験」では冬師集落で農作業時に着用される装束の「ふくべ」も体験できます♪



「わら細工づくり」
体験も実施して
います！

体験を通した伝統の保存

冬師地域には昔から伝わる「わら細工」の技術が今も継承されていて、冬師のおばあちゃんが作るわら細工の品質は高く評価されています。しかし、近年はわら細工の原料となる稻わらの確保が難しくなって来たため、自治会では伝統工芸の保存に向けた協力を兼ね「田植え・稲刈り体験」を実施しています。地域の休耕田を利用したこの取組には、稻の背が高く、わら細工に適した品種を作付けし、秋にはお米の他に稻わらも収穫されています。

地域紹介 その22



三世代交流会館の料理教室

地元のお母さんたちの交流を兼ねて行われた料理教室。地元の伝統料理「太巻き」を作りました。

集落が手を取り合い、協働・共助体制づくり

半道寺 はんどうじ 地域(大仙市)

地域紹介

- 集落数: 9
- 世帯数: 242世帯
- 人口781人



半道寺地域は、大仙市の旧西仙北町に属し、大仙市の西に位置します。



9集落の住民が一堂に会する半道寺三世代交流会館を拠点とし、「集落間の連携」と「世代間の交流」、そして住み続けるための「安全・安心の確保」をテーマに3B体操等の健康づくり講座、防災訓練、婆っちゃんのむかし料理教室、ペタンク等の室内軽スポーツなど住民総参加のイベントを様々工夫して行っています。

～半道寺自治会の活動事例～

世代間や集落の 「つながり」づくり



盆踊りなど地域全体で集まる行事は、中断していました。そこで、平成25年、9集落が集まり「半道寺ふるさと祭り」を開催しました。



高齢者でも参加できる体操運動を主とした健康づくり講座(3B体操)を定期的に開催。9集落の住民の交流と健康増進を図っています！

婆っちゃんのむかし料理教室や ペタンク大会

他にも、三世代間や集落間のつながりづくりのため、出来るだけ、幅広い世代のみんなが参加できるようなイベントを行っています。先生は、地域のおばあちゃんとおじいちゃんがやっています。

9集落が集まって自主防災 訓練・訓練！！



まずは炊き出し訓練。
みんな初めてなので真剣です！



いざという時のために非常用発電機の
使い方もしっかり確認！

単独集落では無理でも、 連携するとできます！

平成25年に建設した半道寺三世代交流会館が、いざという時の避難場所になります。9集落のみんなが協力して、情報伝達、高齢者世帯の支援、炊き出し、非常用の機材の使用方法の確認等を行いました。

地域紹介 その23



いっこ いき 「一戸一輝」の地域づくり

直売所に設置した石窯

平成25年に設置した余目の石窯の前で、由利本荘市・赤田地域の皆さんと撮影。ピザ焼き体験ができ、様々な人の交流の場になっています。

余目 あまるめ 地域(大仙市)

地域紹介

- 集落数:5
- 世帯数:114世帯
- 人口369人



大仙市大曲市街地から西に位置し、地域を国道105号が通り、秋田道大曲ICに隣接しています。大仙市の西の玄関口にある地域です。



大仙市・内小友の5集落で構成する「余目地域活性化対策いきいき会議協議会」が、さくら花火観賞会、新そば祭り等のイベント開催、桜の名所・余目公園や自然観察公園の整備を行っています。近年は地域外の人々に「ふるさとオーナー」として田植えやホタル観賞体験の場を提供しています。

～余目地域の活動事例～

直売所 「e-かげんな父ちゃん母ちゃんの店」



手作りのログハウスを併設した直売所。



直売所の隣「余目そば処」では地元産そばが食べられます。

直売所の運営

余目の直売所は平成20年にオープンしました。初めのうちは青空市場として年数回、試験的に営業していましたが、平成22年に規模を拡大し本格的な営業を開始しました。その後もリニューアルを行い現在の体制となっています。店頭に並ぶのは季節の野菜や、地場産食材を使ったお菓子や漬け物などで、特に手作りおやきは入荷後にすぐ売り切れてしまうオススメ商品です。



いっこ いっき ～余目を明るく照らす「一戸一輝」～

余目の住民がもつそれぞれの特技を一戸一戸持ち寄れば大きな「輝き」となる。余目地域活性化対策いきいき会議協議会ではこの「一戸一輝(いっこ いっき)」を合い言葉に、地域住民が誇る団結力を活かして幅広い分野での村おこしに取り組んでいます。



おそろいのユニフォームを着た協議会メンバーの皆さん

地域紹介 その24

田沢地域運営体 「荷葉(かよう)」の皆さん

秋田県内の大学生と一緒に、地域の特産「田沢長いも」の植え付け作業を行いました。



地域運営体を中心とした活動

田沢 たざわ 地域(仙北市)

地域紹介

- 集落数: 11
- 世帯数: 267世帯
- 人口698人



仙北市の旧田沢湖町に位置し、周囲には、駒ヶ岳や田沢湖、宝仙湖、秋扇湖、玉川温泉、乳頭温泉郷などの観光名所があります。



平成22年に11の集落で構成する「田沢地域運営体「荷葉(かよう)」が発足し、旧コミュニティホームを改装した「むらの喫茶店たざわ」を毎週火・土曜日に経営しています。50年以上続く歳末たすけあい演芸会や、お盆の大山荷葉梵天、村民文化祭や運動会を地域で続けています。

～田沢地域の活動事例～

個々の役割を活かした収入源づくり



私たちが田沢をPR!!
首都圏での試食販売



地域の女性が講師となり、首都圏のスーパーで開催した料理教室。山菜の調理方法をレクチャーしました。

2013/5/1 NO. 33
発行：田沢地域連合体「荷葉」
仙北市田沢湖田沢字大山7番地
TEL: 42-2553 (直通電話をセンターへ)
Email: kayoufuku@hotmail.co.jp

荷葉

首都圏へ山菜販売中

「わらび」が中心になり、千葉県柏市のスーパーへ、5月下旬から毎週わらびやタケノコ等の山菜を発送していく、うはゼンマイやミズを発送し好評を博しています。この間ラビ3.2k、ミズ2.5k、タケノコ10k、タラのせ1k、ウド2k、ゼンマイ1.1k、山菜セットを発送しています。この事業は県から山菜の種類や数量等の要請がきて、採れる分だけ発送するものです。今後キノコ類の要請もあるかもしれませんし、来年も続くかもしれませんので、少しでも関心のある方は、田沢交流センター（千葉）へ連絡下さい。採る方が沢山いれば助かります。

会報にて出荷するための
山菜採取を呼びかけ。



山菜を採取して
首都圏へ出荷。



売り込み活動等を担当する部会が誕生

地場産品の生産拡大や加工品の製造・販売に取り組むことにより、高齢者や女性の働く場を確保しようと、地域の中に専門部会を立ち上げ、住民が持ち寄った山菜等をスーパーに出荷する等、販売全般における窓口を担っています。

～田沢地域の活動事例～

伝統野菜「田沢長いも」の栽培技術継承

田沢長いも栽培技術の習得の様子。地域の技術継承者の男性から教えてもらいながら作業を進めます。

技術継承者



田沢長いもの種芋の植え付け作業の様子。



地域外の大学生が「田沢長いも」の収穫をお手伝い。



「むかしきゅうり」と呼ばれる伝統野菜。



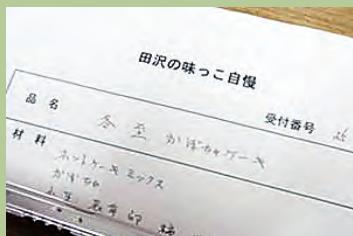
伝統野菜で地域が団結

生産量が少なく、生産された物もほとんどが個別取引で流通するため、なかなか食べることの出来なくなってしまった「田沢長いも」。もう一度特産化しようと、農家・非農家に関わりなく、地域をあげて栽培技術の習得に取り組んでいます。

伝統野菜が見直されているいま、昔からの食も地域の宝物の一つです。

～田沢地域の活動事例～

伝統料理の継承“味っこ自慢”復活！



数々の懐かしい味が並びます。

十数年ぶりに復活した「味っこ自慢」。

地域に伝わる昔からの味を残していきたい、おばあちゃんのつくるあの味が食べたい！ という気持ちから十数年ぶりに復活した田沢地域の「味っこ自慢」。

長年行われてきた行事の日にあわせて開催したことや、コンテストのような順位つけをしないといった工夫が実り、予想を上回る品数が集まりました。

再び地域の行事として定着し、伝統料理の継承や商品開発に結びついていくことを目指しています。

コラム

～50年以上続くイベント～ 「歳末たすけあい演芸会」

50年以上続く田沢地域のエンターテイメントの集大成ともいえるイベントが「歳末たすけあい演芸会」です。

毎年12月に開催され、幼稚園児から高齢者まで広い世代が出演し、歌や踊りを披露します。企画から運営まで手作りの演芸会は、親から子へ、そして、またその子へ、これからも受け継がれていきます。



最大の見どころといえる「演劇」
脚本・出演者 全て地域の人たちの手で。

白岩城址燈火祭

戦国期の山城址に「灯り」をともし、「麒麟」の模様が浮かび上がる幻想的なイベント。毎年2月に開催されます。



重厚な歴史と特産品を活かした村おこし

白岩 地域(仙北市)

地域紹介

- 集落数: 3
- 世帯数: 257世帯
- 人口649人



みちのくの小京都「角館」から車で15分ほど
の場所に位置し、周囲
には「抱き返り渓谷」など
の観光スポットも。



県重要有形文化財の「雲巖寺」の山門や、同じく県重要無形文化財・郷土芸能「白岩ささら」など重厚な歴史文化が伝わり、江戸から明治中期にかけては「白岩焼」の産地として知られました。現在、村おこしグループ「プロジェクトS」が陶芸塾を開所するほか、直売所も運営しています。

～白岩地域の活動事例～

地域を繋ぐ、 白岩城址燈火祭



祭りのメイン、松明の数はなんと400本以上、点火は、白岩小学校6年生の役目です。



「麒麟」をイメージした松明と、祭りを盛り上げる花火。子供も大人も留学生も、みんな感激！

「白岩」にこだわり、夢を求める

平成14年から行われている燈火祭は白岩小学校の子供たちや国際教養大生も参加しています。大学生は、会場設営や横断幕づくりなど行い、住民との交流深めています。また、会場では、地元のお母さんたちや「白岩若者会」が出店した多数の屋台が立ち並び、訪れた方に、温かい食事を提供しています。

直売所「白岩夢畑」 営業中！



4月下旬～5月中旬に開催する「山菜まつり」。採れたての新鮮な山菜を販売します。



7月下旬に開催している、大人気の「とんび舞茸祭り」。

「未知(みち)の駅 白岩夢畑」

白岩地域から、横手市中心部へと続く「みずほの里ロード」を白岩からほんの数百メートルほど入った館山の真向かい付近にある小さな直売所です。営業は、日曜日(春から10月末まで)で、旬の物を収穫次第、随时営業中です(のぼりが目印)。

地域紹介 その26



鹿嶋様祭典

毎年7月に、無病息災、五穀豊穣を祈り、地域内で行われます。早朝から鹿嶋様の体を作り、夕方から鹿嶋様と共に地域内の各家々を巡ります。

伝統行事と新たな取組 溫故知新の里

木下きじた 地域(横手市)

地域紹介

- 集落数: 1
- 世帯数: 53世帯
- 人口195人



木下地域は県道13号沿いに細長く広がる地域で、日光神社、鹿嶋神社、稻荷神社、さらに家々には氏神様が祀られている、神様が多く鎮座する地域です。



木下地域では、日光神社のお祭り、観音様、鹿嶋様祭典などの神社やお地蔵様の行事が大切に守り伝えられています。平成24年(2012年)度には、「木下ふれあい隊」という新たな会が結成され、健康づくりや生きがいづくりを目的とした「いきいきサロン」が月に数回行われているほか、除雪支援などが一丸となって行われています。

～木下地域の活動事例～

地域が団結！「除排雪・サロン」の取組



木下ふれあい隊の除雪作業の様子。



木下さいきサロン・健康体操の様子。

木下ふれあい隊の活動！

地域住民同士の交流や親睦、結びつきを深めることを目的に、地域の専業農家や退職した方などで結成された「木下ふれあい隊」。「即決」と「行動力」そして「継続は力なり」をモットーに様々な活動に取り組んでいます。

雪深い木下地域では、たびたび大雪に見舞われます。木下ふれあい隊ではトラクターで地域内を除雪するなどして地域を支えています。

また、木下会館を会場に毎月第2、第4木曜日に、有識者・専門分野の方からの健康講話や体操教室(らくらく体操)をメインに「木下さいきサロン」を開催し、毎回、多くの住民の皆さんのが集まり交流を深めています。



木下の女子会「観音様」

毎年3月の最終日曜日に行う「観音様」は女性の祭典。その名の通り「子宝」や「懷妊」のご加護がある神様で、30kgを超えるご神体を女性が背負い、お堂から会館まで運ぶ奇祭です。多くの女性たちが集まり、手作りのお料理を食べながら、会話に花が咲くお祭りです。



集落会館内は→
女性で満員

←若い女性がご神体
の石像を背負います





千本杵餅つき(祝い餅つき)

家を新築する際、住民が集まって祝いの餅をつく、三叉の風習。現在、集落行事の場で見ることができます。

いぶりがっこの生産地

三又みつまた 地域(横手市)

地域紹介

- 集落数: 1
- 世帯数: 21世帯
- 人口53人



横手市の旧山内村に位置し、東は岩手県西和賀町と接しています。相野々地区から県道40号を南下すると三又に入ります。



横手川上流部に沿って発達した山間の集落。いぶりがっこづくりが盛んで、長さ30cm以上ある山内にんじんの生産地でもあります。観光わらび園や農家民宿「三又長右エ門」などの施設には観光客も訪れてています。毎年8月14日に地元有志により「渓流まつり」を開催しています。

～三又地域の活動事例～

三又観光わらび園



整備された観光わらび園。
5月中旬～7月下旬にかけて開園しています。



宮城県からの
観光客も訪れます。



三又営農生産組合のみなさん。
(腕章をつけて巡回)

わらび園の管理

もともと、わらびの生える豊穣な土地を、地元の三又営農生産組合が、草刈り、肥料入れ、火入れを行い、観光客用にわらび園を整備しています。入口を1箇所とし、常に管理人が常駐しています。

三又旬菜グループ



加工品を全国に
出荷しています。

三又名物「いぶりがっこ」と
伝統野菜「山内にんじん」の漬物。



首都圏スーパーの店頭販売において
ミズたたきを披露するお母さん。

漬物・山菜等の販売

地域の婦人で組織する三又旬菜グループは、漬物等の加工品づくりに取り組んでいます。また、首都圏の小売店へ天然山菜を出荷するほか、ネット販売などを通じて全国にも出荷しています。

地域紹介 その28

大学生と一緒に「恵比寿俵」

恵比寿俵の奉納には人手が必要なため、地域外の大学生にも協力してもらっています。大学を卒業して他県に就職した人が翌年のお祭りにも参加してくれたこともあるなど、交流が続いている。



「恵比寿俵」を地域づくりのきっかけに

内町・御屋敷 地域(湯沢市)

地域紹介

- 集落数: 2
- 世帯数: 57世帯
- 人口123人



湯沢市の旧雄勝町の院内地区に位置します。近隣には院内銀山異人館や国指定史跡の岩井堂洞窟跡など名所が多く点在します。



「内町」「御屋敷」の地名は、統治者が付近に館を構え政務を行ったことに由来します。江戸時代、佐竹家の重臣が、銀山の管理や藩境の警備という重要な役割を持つ院内地域を統治しており、内町・御屋敷はその拠点となっていました。現在、内町と御屋敷、2つの町内は一緒に地域活動を行っています。

～内町・御屋敷地域の活動事例～

座談会がスタート！ 恵比寿俵奉納の復活から広がる交流の取組



取組のきっかけは「唄」。

内町・御屋敷地域では、座談会でのある出来事がきっかけで、地域住民の交流に向けたいいろいろな取組が実施されています。

その取組のきっかけとなった出来事とは…「唄」なんです！

座談会で昔やっていたが今は無くなった行事ということで「恵比寿俵の奉納」についての話になったとき、ある一人が「そういえば…」と恵比寿俵の「奉納の唄」を歌ってくれました。すると、他の人が「練り歩くときの唄もあるんだ」と別の唄を…それがどんどん、どんどん飛び火していくのまにか「もう一回やってみるか！」になり、みんなで集まって恵比寿俵を作り、その年のお祭りで見事に行事の復活が果たされました。



春の「花見会」。



冬の「芋の子汁会」。

やってみて「やっぱり地域のみんなが顔を合わせるのは楽しい」、「そういう場がもっとあればいい！」との声が多くあがり、恵比寿俵奉納から始まった取組は、春の「花見会」、冬の「芋の子汁会」と一年を通じた交流に広がりました。

地域紹介 その29



小野小町ゆかりの地

毎年6月の第2土曜日と日曜日に「小町まつり」を開催しています。湯沢市内から選ばれた7人の小町娘が平安時代の衣装に身をつつみ幻想的な空間をつくりだします。

小野小町伝説と史跡の里

小野おの 地域(湯沢市)

地域紹介

- 集落数:18
- 世帯数:767世帯
- 人口2, 271人



小野地域は、JR奥羽本線横堀駅の東北部に位置し、西の院内地区、南の秋ノ宮地区に囲まれています。



18の町内会で構成する「小野地域づくり協議会」が戦国時代に地域を治めた「小野寺氏」の城趾整備を行いました。小町ゆかりの史跡に加え、郷土芸能「泉澤番楽」、道祖神「鹿島様」など見どころが豊富です。地域の観光拠点「道の駅おがち」には直売所「菜々こまち」や観光交流拠点施設が整備されています。

～小野地域の活動事例～

小野地域づくり協議会の活動



小町まつりの準備作業

毎年6月の第2土曜日と日曜日に開催される「小町まつり」は多くの観光客が訪れます。有料撮影会の撮影場所を小野地域づくり協議会が整備しています。



毎年盛大に開催される「敬老会」。

平成の大合併をきっかけに発足した「小野地域づくり協議会」。地域内18の町内会によって構成され、地域のことは地域でモットーに「夢・魅力づくり部会」、「暮らし・環境づくり部会」、「総務・広報部会」の3部会体制で小野城趾の史跡整備や「川遊び」「芋の子汁会」などの住民交流行事を行っています。



芋の子掘り体験

小野地域づくり協議会の主催で、河川公園で育てた芋の子(里芋)やネギ、ジャガイモを子どもたちが収穫。



「芋の子汁会」

芋の子掘り体験で収穫した芋の子を使います。地元のお母さんたちが、地元のセリ、鶏肉などを加え、「たまり」を使い味付けします。

～小野地域の活動事例～

川遊び体験教室



近隣の小学校へも呼びかけて、沢山の子供たちが訪れています。

川遊びは子供たちの階段掃除から始まり、ジオサイトの学習も兼ねた珍しい石探し、イワナのつかみどりが行われます。そして立ち並ぶ地域のみなさんの屋台で流しそうめん、焼きそば、イワナの塩焼きなどをお腹いっぱい食べることができます。



雄勝高校の野球部・生徒会の皆さん
ボランティアで手伝ってくれます！

つかみどり体験で捕まえたイワナをその場で
食べると美味しい！

地域のみんなが支えます。

雄勝高校のボランティアの活躍も見逃せません。準備の段階から細かい仕事などを引き受け、川原で子供たちが安全に遊べるように、シートを設置したり岩を動かしたりします。階段掃除では一緒に汗を流して掃除をし、川の中では子供たちの安全に配慮し、子供たちがイワナをとれば一緒に喜びます。イベントのお手伝いだけではなく、子供たちの良きお兄さんお姉さん役としても活躍しています。

～小野地域の活動事例～

小野城趾本丸整備事業



小野地域づくり協議会が三年がかりで遊歩道を整備した小野城趾からの大パノラマ。戦国時代に、この地を治めた「小野寺氏」の居城でした。雄物川沿いに小野地域を見下ろせます。



伝えよう、地域の歴史！

平成25年に整備した「小野城趾」を見て貰いたいと、閉校が予定されている小野小学校の生徒を招待し、見学会を開催しました。この他にも、地域の名所に説明看板を設置し、地域の歴史を伝える取組を行っています。

コラム

高橋正作の家と鹿島様

小野小町や小野城趾など歴史史跡の見どころが多い小野地域。この他にも「農聖」と呼ばれた石川理紀之助が師と仰いだ人物・高橋正作が暮らした古民家や、稲作文化の結晶「鹿島様」と呼ばれる藁人形の神様を見ることがあります。



地域紹介 その30

小さな若畠 大きな団結

「わだ(私たち)のことはわだでやる」をスローガンに毎年紅葉祭りを開催。紅葉シーズンの観光客が立ち寄り、リピーター客も増えています。



10世帯が暮らすみそ焼きたんぽの里

若畠 わかはた 地域(湯沢市)

地域紹介

- 集落数: 1
- 世帯数: 10世帯
- 人口39人



湯沢市の旧皆瀬村に位置。兜山、奥宮山の山々に囲まれ、湯沢市のジオサイトにもなっています。



山々に囲まれた標高420mの場所にある農村集落です。「若畠里づくり協議会」を地域で立ち上げ、平成10年から住民総参加の手作りイベント「紅葉祭り」を開催しています。毎年、手作りのみそ焼きたんぽを東京の麻布十番商店街の納涼祭りで販売し、好評を得ています。

～若畠地域の活動事例～

どこにいても『若畠人』 他出家族も参加しやすい『若畠紅葉まつり』



若畠紅葉まつり
の様子。



若畠地域で、毎年秋に開催される「若畠紅葉まつり」には、若畠から離れ、別の地域に住む子供たちも手伝いに来てくれます。中にはこの行事に合わせ、仕事の休みをもらい県外から駆けつける方もいるそうで、その秘密を地域の方は「毎年10月の第2日曜日にやるって決めているから、頼まなくても手伝いに来てくれるんだ」と話します。

仙台に集まり、若畠の将来について語る会



そんな世代を超えて、強いつながりを持つ若畠地域では、県外に出て生活する若畠出身者を交え地域の将来についての話し合いが実施されました。話し合いの中では「地域での行事など、いつ何があるのか分かれば年に数回なら手伝いに帰ることができる」や、「今は仕事や子供の学校があり帰ることはできないけど将来は帰りたい」などの意見が出ました。

地域の方の「『わだのことはわだでやる(自分たちのことは自分たちでやる)』の気持ちでやってきたが、もう自分たちだけで頑張らなくてもいいんだって感じた」の感想がとても印象的でした。

地域紹介 その31



雪中綱引き

平成25年から始めた冬の行事。子供から大人、お年寄りまで200人以上の住民が参加し、世代間の交流を行う場となっています。

40年以上続くコミュニティ活動

堀回 ほいまわい 地域(羽後町)

地域紹介

- 集落数: 12
- 世帯数: 357世帯
- 人口1, 114人



羽後町役場の南西部に位置し、横手盆地の南西に広がる田園地帶です。地域内を走る県道57号は旧矢島藩方面に通じる重要な街道でした。



12の集落で構成する「堀回地区コミュニティ推進委員会」が、地域のまとめ役として住民アンケートや座談会を実施し、住民の声をくみ取る活動を昭和49年から続けています。「元城(もとき)獅子舞」「元城(もとき)盆踊り」と古くからの伝統行事が受け継がれています。

～堀回地域の活動事例～

雪中綱引き合戦！



地域のみんなが参加できる行事をコミュニティ活動40周年の記念として開催しました。「たいしたおもしろかったので、続けて欲しい」との声が多数上がり、継続して実施しています。

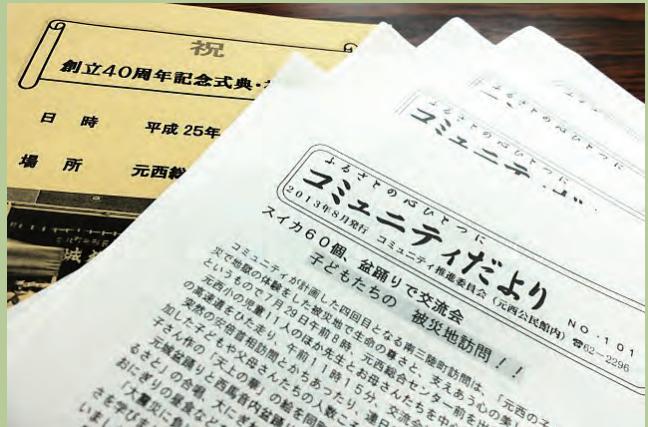


綱引きのあとは、昼食をみんなで食べて、アトラクション。元城獅子舞保存会による「元城獅子舞」が舞われました。

「地域のみんなが参加出来るチーム編成」

保育園児対老人クラブ、小学校教員対農協職員、PTA対消防団など、地域住民や団体などなるべく数多くの団体が参加できるように組み合わせを工夫して盛り上げています。

コミュニティ活動40年！



堀回地区コミュニティ推進委員会は、昭和49年に設立し、平成25年に40周年を迎えました。その間の取組が「コミュニティだより」に綴られています。



堀回を見守る、地域のシンボル『西馬音内城趾』

元西小学校の入り口に、「小野寺家大手門趾」の文字が刻まれた石碑が置かれています。ここが、堀回地域のシンボルでもある「西馬音内城」の大手門です。

西馬音内盆踊り、元城盆踊り、元城獅子舞発祥に関わる西馬音内城跡を整備し、史跡を活かした地域活性化に取り組んでいます。



地域紹介 その32



あづきでっちの試験販売

昔からお母さんたちの「お茶請け」として親しまれてきたお菓子「あづきでっち」の販売を秋田駅西口で行い、100パックを完売しました。

「あづきでっち」で地域づくり

椿台 つばきだい 地域(東成瀬村)

地域紹介

- 集落数:3
- 世帯数:59世帯
- 人口201人



岩手県と接した椿台地域は、1000年以上の歴史を持つ「仙北道」が岩手県に通じており、貴重な歴史遺産として脚光を浴びています。旧椿川小学校を改装した「まるごと自然館」が地域の拠点施設になっており、住民の交流行事や防災拠点の避難所にも使用されています。

～椿台地域の活動事例～

地域の防災マップづくり と防災訓練



「誰が誰を助けるか」について
地域で話し合いながらのマップづくり。



災害時の給水活動の様子。

昔から続く風習が支援に繋がる

椿台地域では、防災マップづくりと防災訓練による自主防災対策を実施しています。

防災マップには、地域の一人暮らしの高齢者など、災害が起った際に地域の支えが必要となる人や、水道が止まった場合に給水できる地域の水源地などが記されていて、これを基に、災害時は「誰がどう動くか」などの約束事が決められています。こうした取組には、地域に昔からある「五軒組」という5~6世帯の小さい単位で活動する仕組みが下地になっています。

伝統食「あずきでっち」の商品化



椿台地域の伝統食「あずきでっち」。



「あずきでっち」の試験販売はあっという間に完売！

パック詰めされた
「あずきでっち」。

地域の伝統食を地域外へ！

椿台地域に昔から伝わる郷土料理の「あずきでっち」は、小豆をふんだんに使用した餅菓子で、椿台地域では、この郷土料理を活用した地域の元気づくりを進めています。

作り方の過程によって味に違いができる「あずきでっち」の商品化に向けた勉強会には、地域のお母さんたちが集まり、調理法や材料の分量を試行錯誤して完成させました。みんなで作った「あずきでっち」をきれいにパッケージし、試験的に販売したところ、あっという間に完売しました。

～横手共助モデル地区の取組～

「共助」ってどんなこと？

「共助」(きょうじょ)という言葉は、文字通り「共に助け合う」ことを表しています。一般的に「自助、共助、公助」という三つの種類の言葉があり、それぞれの言葉は次のような意味を持っています。

自助

課題や問題などについて、自分(家族も含む)で取り組み、生活を守ること。

共助

課題や問題などについて、地域や身近に居る人が協力して取り組み、地域を守ること。

公助

市町村や、県、警察、消防などの行政が実施する公的支援。

横手市4地区での雪下ろし・除雪支援活動

横手市の保呂羽、狙半内、南郷、三又の4地区では、平成23年度に「共助の仕組みづくり」を行い、平成24年度から地域で困っている高齢者など、「地域の支えが必要な人」を対象とした、屋根の雪下ろしや除雪支援が実施されています。

雪よせ、除雪支援の様子



保呂羽地区



南郷地区

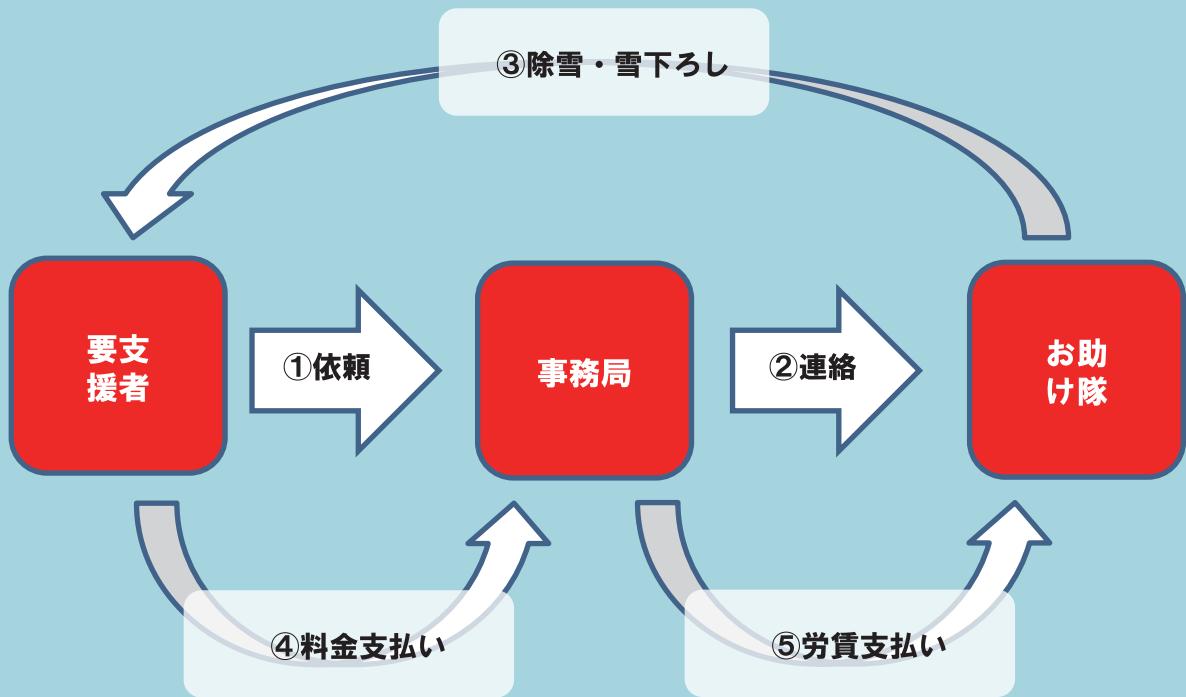


三又地区



狙半内地区

横手市4地区で実施されている共助の取組イメージ図



狙半内地区での買い物支援の取組

狙半内地区では、共助組織が地元スーパーと協定を結び、週一回地域内を巡回する買い物バスが運行されています。

買い物バスには共助組織のメンバーも同乗し、高齢者の買い物をお手伝いしています。最近では、60代の利用者が80代の利用者の買い物を手伝い、80代の利用者が60代の利用者に山菜の調理法や漬け物の作り方を教えてあげるなど、利用者間のコミュニケーションが生まれ、「地域が明るくなかった」との声も聞かれるそうです。



用語解説

(地域) コミュニティ【(ちいき) こみゅにてい】

昭和44年、国民生活審議会小委員会による定義では「生活の場において、市民としての自主性と責任を自覚した個人及び家庭を構成主体として、地域性と各種の共通目標を持った、開放的でしかも構成員相互に信頼感のある集団」とされています。

本書では、自治会・町内会等の組織を、そこにお住まいのみなさんが主体として参画している「地域コミュニティ」そのものとして位置付けています。

元気ムラ【げんきむら】

地域に住む人同士がつながり、対話と課題解決を重ねながら地域の将来づくりにチャレンジする、より住民主体性、課題解決性の強いコミュニティ活動に取り組む地域を県と市町村では「元気ムラ」と位置づけ、その地域の将来づくりに向けた活動を支援しています。

集落点検【しゅうらくてんけん】

地域にお住まいのみなさまが持っている地域への愛着や、住民同士の結束力、活性化への主体的意欲など、個々の地域への思いを、自治会や町内会など、一定の地域コミュニティの範囲内でお聴かせいただく調査・アンケートの手法です。

集落点検の結果を取りまとめ、報告会を実施し、個の想いを見る形でみなさんが共有することを、地域の将来づくりの第一歩として実施しています。

ワークショップ【わーくしょっぷ】

参加者の自発的な発言・体験を通し、グループの相互作用の中で何かを学びあったり創り出したりする、双方向的な学びや創造・問題解決にむけた手法の一つ。

本書では、住民参加型のまちづくり・地域づくりに向け、地域に関わる様々な立場の人人が自ら参加し、地域の課題を解決するための話し合いや、合意形成を図る手法の一つとして位置付けられています。

GBビジネス【じー・びーびじねす】

じっちゃん（＝G）、ばっちゃん（＝B）の経験や技を地域資源と結びつけ収入につなげる取組（＝ビジネス）を表す造語です。

GBビジネスの一例として、元気ムラ共有の資源である山菜等のリレー出荷体制などがあります。県内各地に広がる元気ムラをネットワークで結びつけ、出荷時期を調整することにより、統一規格での安定的な、そして、定量的な出荷を実現しています。

共助【きょうじょ】

地域の課題や問題などについて、地域に住む人や、その身近にいる人が協力して取り組み、課題の解決を図る、地域を守る支え合いを意味します。

一般的に自助（じじょ）「=課題や問題などについて、自分（家族も含む）で取り組み、生活を守ること。」、公助（こうじょ）「=市町村や、県などの行政が実施する公的支援。」と並んで使用されます。

サロン【さろん】

高齢者をはじめ地域の誰でも気軽に立ち寄り、お茶を飲んだり食事をしながらおしゃべりのできる「地域に住む人同士のつながりづくりの場」という意味です。

本書では「高齢者ー」、「ふれあいー」などの形で、地域が実施している事例が紹介されています。

フットパス【ふっとぱす】

フットパス（footpath）は、イギリスを発祥とし、“その地域の昔からあるありのままの風景を歩きながら（foot）楽しむことができる小径（こみち=path）”という意味で使用されています。日本では「歴史や文化を楽しんで歩くことができる道」という意味合いが強くなっていて観光振興やまちづくりのきっかけとして、フットパスツアーを実施している地域もあります。

地域コミュニティサポート窓口のご案内

県 北

鹿 角 市	市民共動課	0186-30-0202		
小 坂 町	総務課	0186-29-3907		
大 館 市	企画調整課 比内総合支所	0186-43-7027 0186-43-7093	田代総合支所	0186-43-7099
北 秋 田 市	総合政策課 合川総合窓口センター	0186-62-6606 0186-78-2100	森吉総合窓口センター 阿仁総合窓口センター	0186-72-3111 0186-82-2111
上 小 阿 仁 村	総務課	0186-77-2221		
能 代 市	市民活力推進課 ニツ井地域局総務企画課 向能代地域センター 扇淵地域センター	0185-89-2212 0185-73-2112 0185-52-6318 0185-58-3100	鶴形地域センター 檜山地域センター 常盤地域センター 南地域センター	0185-58-3211 0185-58-3101 0185-59-2111 0185-89-2324
藤 里 町	総務課	0185-79-2111	教育委員会生涯学習係	0185-79-1327
八 峰 町	企画財政課	0185-76-4603		
三 種 町	企画政策課	0185-85-4817		

県 中

秋 田 市	生活総務課 西部市民サービスセンター 北部市民サービスセンター	018-866-2036 018-888-8080 018-845-2261	河辺市民サービスセンター 雄和市民サービスセンター 南部市民サービスセンター	018-882-5421 018-886-5550 018-838-1213
男 鹿 市	企画政策課	0185-24-9122		
潟 上 市	企画政策課	018-878-9802 018-853-5302	※H27. 5. 6まで ※H27. 5. 7から	
五 城 目 町	まちづくり課	018-852-5361		
井 川 町	総務課	018-874-4411		
八 郎 潟 町	総務課	018-875-5801		
大 潟 村	総務企画課	0185-45-2111		
由 利 本 荘 市	地域おこし課 地域振興課 矢島総合支所振興課 岩城総合支所振興課 由利総合支所振興課 大内総合支所振興課 東由利総合支所振興課 西目総合支所振興課 鳥海総合支所振興課 子吉出張所 小友出張所	0184-24-6231 0184-24-6231 0184-55-4951 0184-73-2011 0184-53-2112 0184-65-2211 0184-69-2110 0184-33-4610 0184-57-2201 0184-22-0425 0184-22-0318	※H27. 3. 31まで ※H27. 4. 1から 石沢出張所 北内越出張所 松ヶ崎出張所 南内越公民館 龜田出張所 下川大内出張所 上川大内出張所 直根出張所 笹子出張所	0184-29-2111 0184-22-0319 0184-28-2001 0184-22-0316 0184-72-2001 0184-66-2001 0184-67-2301 0184-58-2111 0184-59-2311
に か ほ 市	企画課	0184-43-7510		

県 南

大仙市	総合政策課 神岡支所市民サービス課 西仙北支所市民サービス課 中仙支所市民サービス課	0187-63-1111 0187-72-2111 0187-75-1111 0187-56-2111	協和支所市民サービス課 南外支所市民サービス課 仙北支所市民サービス課 太田支所市民サービス課	018-892-2111 0187-74-2111 0187-63-3003 0187-88-1111
仙北市	企画政策課 田沢湖地域センター 田沢出張所 神代出張所	0187-43-1112 0187-43-1147 0187-43-1351 0187-43-1352	角館地域センター 西木地域センター 上桧木内出張所 桧木内出張所	0187-43-3309 0187-43-2200 0187-49-2159 0187-48-2001
美郷町	企画財政課	0187-84-4901		
横手市	経営企画課 地域づくり支援課	0182-35-2164 0182-35-2266	※H27.3.31まで ※H27.4.1から	
湯沢市	暮らしの相談課 企画課 稻川総合支所	0183-55-8033 0183-73-2113 0183-42-2111	雄勝総合支所 皆瀬総合支所	0183-52-2111 0183-462111
羽後町	企画商工課	0183-62-2111		
東成瀬村	企画商工課	0182-47-3402		

県機関

企画振興部 活力ある集落づくり支援室	018-860-1215
県教育委員会 生涯学習センター	018-865-1171
鹿角地域振興局 地域企画課	0186-22-0457
北秋田地域振興局 地域企画課	0186-62-1251
山本地域振興局 地域企画課	0185-55-8004
秋田地域振興局 地域企画課	018-860-3319
由利地域振興局 地域企画課	0184-22-5432
仙北地域振興局 地域企画課	0187-63-5114
平鹿地域振興局 地域企画課	0182-32-0594
雄勝地域振興局 地域企画課	0183-73-8191

地域づくり活動に取り組みたいけど、何から始めたらいいのかわからない…

地域で自主防災組織をつくりたいので、既に取り組んでいる地域に行って勉強したい…

地域づくり活動でお悩みの場合は、地域コミュニティサポート窓口にご連絡ください！



本誌掲載の事例については ホームページでもご覧になれます

旬の情報を
ブログで発信

県内58地域
(※)掲載中!

※平成26年8月1日現在

北は小坂町、南は湯沢市まで、あきたのムラ情報満載♪

秋田県のがんばる農山漁村集落応援サイト (通称：元気ムラ応援サイト)

- URL <http://common3.pref.akita.lg.jp/genkimura/>
- Twitterアカウント→@akitagenkimura ● Facebook→「あきた元気ムラ」

今すぐ
検索

元気ムラ

検索



お問い合わせ

地域活動ヒント集 編集部事務局
(秋田県企画振興部活力ある集落づくり支援室)

〒010-8570 秋田県秋田市山王四丁目1-1

電話 018-860-1215 FAX 018-860-3875 E-mail:katsu@pref.akita.lg.jp